

# KORG

ai AI<sup>2</sup> Synthesis System

# CONCERT

## KORG DIGITAL PIANO

お買い上げいただきありがとうございます。  
 本製品を末永くご愛用いただくためにもこの  
 取扱説明書をよくお読みになって、正しい方  
 法でご使用ください。

## 取扱説明書

# C-710

GENERAL MIDI PCI/F SRS (●)

# C-560



PCI/F SRS (●)

安全上のご注意	2
バックアップバッテリーについて	3
データについて	3
ディスクドライブをお使いになる前に(C-710のみ)	3
はじめに	4
1. C-710各部の名称とその機能	4
2. C-560各部の名称とその機能	6
3. 演奏するための準備	8
4. デモ演奏を聴いてみましょう	9
弾いてみましょう	11
1. 音色を選びます	11
2. 音色に残響や広がりを与えます	12
3. ペダルを使った効果	12
4. メロノームに合わせて演奏します	13
5. 鍵盤のタッチ感を変えます	14
6. 弾きやすく、歌いやすくします(移調)	15
7. 音程のずれを微調整します	15
8. 音律を選びます	16
演奏を録音/再生してみましょう	18
1. 演奏を録音します	18
2. 演奏を再生します	20
3. アンサンブルを楽しむには	21
4. 録音した演奏データのタイミングを 整えるには	23
5. 2つのパートの演奏データを 1つのパートにまとめるには	23
6. ソングパートを消去します	24
7. いくつかの録音方法	24

C-710のさまざまな機能	27
1. ディスクのフォーマット(初期化)	27
2. 演奏データをフロッピーディスクに 保存します(セーブ)	27
3. フロッピーディスクから演奏データを 読み込みます(ロード)	28
4. スタンダードMIDIファイルを再生します (ソングプレイ)	28
5. スタンダードMIDIファイルを読み込みます	30
6. 演奏データをSMFにして フロッピーディスクに保存します	30
7. マイクを接続して歌ってみましょう	31
他の機器との接続	32
1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続	32
2. MIDI機器との接続	32
3. コンピュータとの接続	36
資料	38
1. スタンドの組み立て方	38
2. KORG MIDI Driverの インストールとセットアップ	42
3. 仕様	48
4. 音色グループリスト	49
[GM]音色リスト(C-710のみ)	49
[BASS]音色リスト(C-560のみ)	49
[DRUM KIT](ドラムキット)マップ	50
5. 操作スイッチ機能一覧	52
6. LED画面のメッセージ	54
7. 設定の初期化	55
8. 故障とお思いになる前に	56
9. 索引	58
MIDIインプリメンテーションチャート	59

# 安全上のご注意

**WARNING:**  
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT  
EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

	<b>CAUTION</b> RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN	
<b>AVIS: RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.</b>		
<b>注意</b> 感電の恐れあり、キャビネットをあげるな		
CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.		

## マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには 以下の指示を守ってください。

ピアノはご家庭の中で身近に置かれ、お子様から専門家の方まで幅広くご愛用いただくものです。

ピアノは大きくて重いものですので、室内での置き場所や日常の取り扱いについて、安全にご使用いただくための注意をお願いします。小さなお子様には、最初にご家族の方から教えてあげてください。

## 警告



- 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。
- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は水平で平らな床面に行ってください。
- 本製品を移動する時に引きずって行くと床面を傷付けるばかりでなく、思わぬ事故を起こしかねません。必ず2人以上で持ち上げて移動してください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
  - 製品が(雨などで)濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)・外装等の変形や火災の原因になります。
  - 水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
  - ホコリの多い場所
  - 振動の多い場所



- 本製品はキーカバーまたは譜面立ての開閉時に指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分注意してください。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。



- 本製品の上に乗ったり、下にもぐり込んだりして遊ばないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。落ちると危険です。
- 本体に前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。
- 地震の時はピアノに近づかないでください。
- 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。
- 本製品を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。



- この機器を分解したり、改造したりしないでください。



- 付属のスタンドは「スタンドの組み立て方」(38ページ)に従って必ずピアノ本体を設置のうえ、使用してください。その際、必ずペダル用コネクターを[PEDAL]端子に差し込んでください。
- 付属のスタンドは長期間ご使用になりますとネジが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには、安全のため「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。
- 本製品を移動するときはピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「スタンドの組み立て方」(38ページ)に従い、スタンドのネジの締め直し及び、再設置を行ってください。
- 付属の椅子はピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり、踏台にすると転倒したり壊れたりして危険です。
- 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。



- 付属の椅子の高さ調節は椅子から降りて確実に行ってください。腰掛けたまま行くと手を挟むことなどが危険です。

## 注意



- 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。
- 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは十分に離してご使用ください。
- 他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。



- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシュャーも不可)。
- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。
- 今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。

## ピアノを楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。時間帯によって音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

## バックアップバッテリーについて

本製品は、電源オフ後に内蔵メモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。LED画面に“Lo”の表示が出たら、バッテリーの交換を行う必要がありますので、最寄りのコルグ製品取扱店または、コルグ営業技術課までお問い合わせください。

●“Lo”表示を消すには、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはフロッピーディスク(C-710のみ)や、外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください(35ページ)。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## ディスクドライブをお使いになる前に (C-710のみ)

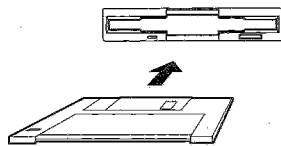
### フロッピーディスクの種類

フロッピーディスクは、2DDまたは2HDの3.5インチのフロッピーディスクを使用してください。2DDはMS-DOS 720kByte、2HDはMS-DOS 1.44MByteのフォーマットで使用してください。

### フロッピーディスクの入れかた

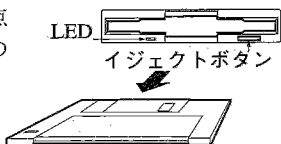
フロッピーディスクはラベル面を上にして、ディスクドライブに対して、まっすぐに「カチッ」という音がするまで挿入してください。

無理に押し込むと故障の原因になりますので注意してください。



### フロッピーディスクの取り出しかた

C-710のディスクドライブが実行中でないこと(LED画面の右端の“.”が点滅してない、及びディスクドライブのLEDが消灯している)を必ず確認してから、イジェクトボタンを押して取り出します。




## フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクを取り扱うときは、次の点に注意してください。磁気ディスクが汚れたり、傷つけると読み出し書き込みができなくなります。

- シャッター部分を開けたり、フロッピーディスク内の磁気面に直接触れないでください。
- フロッピーディスクを本体のディスクドライブに入れたまま、C-710を輸送しないでください。(ヘッドがフロッピーディスクを傷つけるため)。
- フロッピーディスクをテレビ、ディスプレイ、スピーカー、電源トランスなど磁気を発生する機器には近づけないでください。
- 高温、多湿の場所、直射日光のあたる場所、ゴミやホコリの多い場所で使用、保管しないでください。
- フロッピーディスクの上のものをのせないでください。
- フロッピーディスクを使ったあとはケースに入れて保管してください。
- ディスクドライブの動作中は、本体に衝撃を与えないでください。

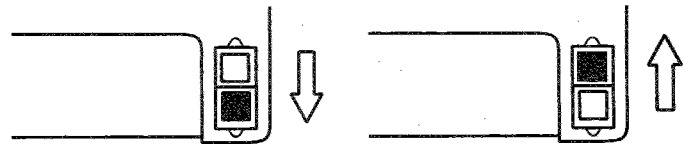
## フロッピーディスクのライトプロテクトについて

フロッピーディスクには、誤ってデータを消去してしまったり、書き換えてしまうことのないように、“ライトプロテクトホール”という小さな窓がついています。

 セーブしたデータを壊してしまわないように、セーブ後はタブを下げて「書き込み禁止の状態」にしてください。

書き込み禁止の状態：ライトプロテクトホールが開いた状態になるようにタブを下げます。

書き込み可能な状態：ライトプロテクトホールが閉じた状態になるようにタブを上げます。




## ヘッドのクリーニング

ヘッドが汚れていると、保存や読み込み時にエラーが発生する原因になりますので、ヘッドを定期的にクリーニングしてください。ヘッドのクリーニングには、市販の湿式3.5インチ両面用ヘッドクリーニングディスクを使用してください。片面用を使用すると、ドライブを傷める原因となります。

1. クリーニングディスクをディスクドライブにセットした後、[LOAD]スイッチを押して読み込みを実行します。LED画面に“-.-.”が点滅表示されます。
2. 約10秒後にイジェクトボタンを押して、クリーニングディスクを取り出します。

長時間クリーニングをし続けるとヘッドを傷めますので注意してください。

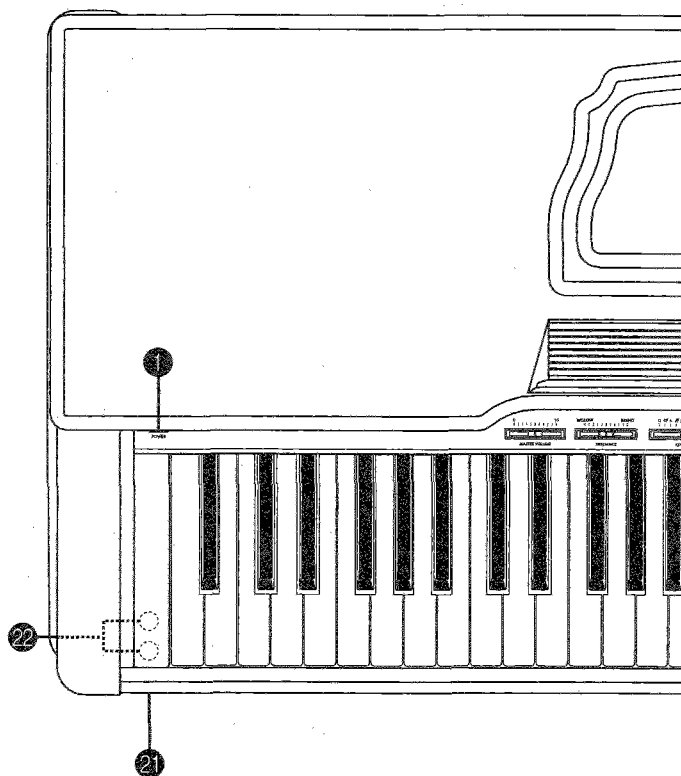
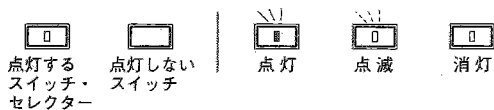
 クリーニング後約5分間はディスクドライブを使用しないでください。クリーニング液が乾かないうちに使用すると故障の原因になります。

# はじめに

## 1. C-710各部の名称とその機能

### スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[ ]で括弧しています。  
スイッチランプの点灯・点滅・消灯は次のように表します。



#### ① パワースイッチ

電源をオン、オフします。  
押すたびにオン、オフが切り替わります。  
[POWER]スイッチ (p.8)

#### ② マスターボリューム

スピーカーやヘッドホンから出る音量をコントロールするスライダです。  
[MASTER VOLUME]スライダー (p.8)

#### ③ ブリリアンス

音色の明るさをコントロールするスライダーです。  
[BRILLIANCE]スライダー (p.12)

#### ④ キートランスポーズ

移調を設定するスライダーです。  
[KEY TRANSPOSE]スライダー (p.15)

#### ⑤ サラウンド、エフェクト

音色にさまざまな効果を加えるスイッチです。  
[SURROUND]、[EFFECT]スイッチ (p.12)

#### ⑥ タッチコントロール

鍵盤タッチによる音量変化の度合を設定するスイッチです。  
[TOUCH CONTROL]スイッチ (p.14)

#### ⑦ チューン

ピッチ (音程) を調整するスイッチです。  
[TUNE]スイッチ (p.15)

#### ⑧ テンペラメント

古典調律など音律を選択するスイッチです。  
[TEMPERAMENT]スイッチ (p.16)

#### ⑨ 音色セレクター

音色を選択するスイッチです。  
[PIANO1]、[PIANO2]、[E.PIANO]、[HARPSI]、[VIBES]、  
[ORGAN]、[STRINGS]、[DRUM KIT]、[GM]スイッチ (p.11)

#### ⑩ MIDI (ミディ)

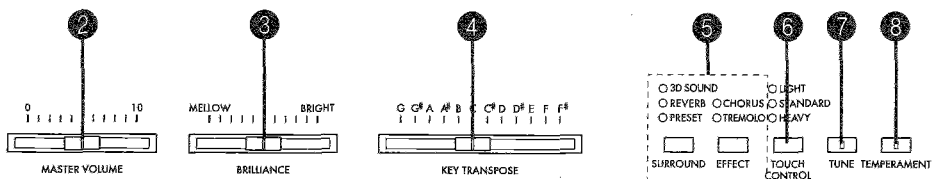
MIDIのさまざまな設定や他のスイッチと組み合わせていろいろな機能を設定するスイッチです。  
[MIDI]スイッチ (p.52)

#### ⑪ LED画面

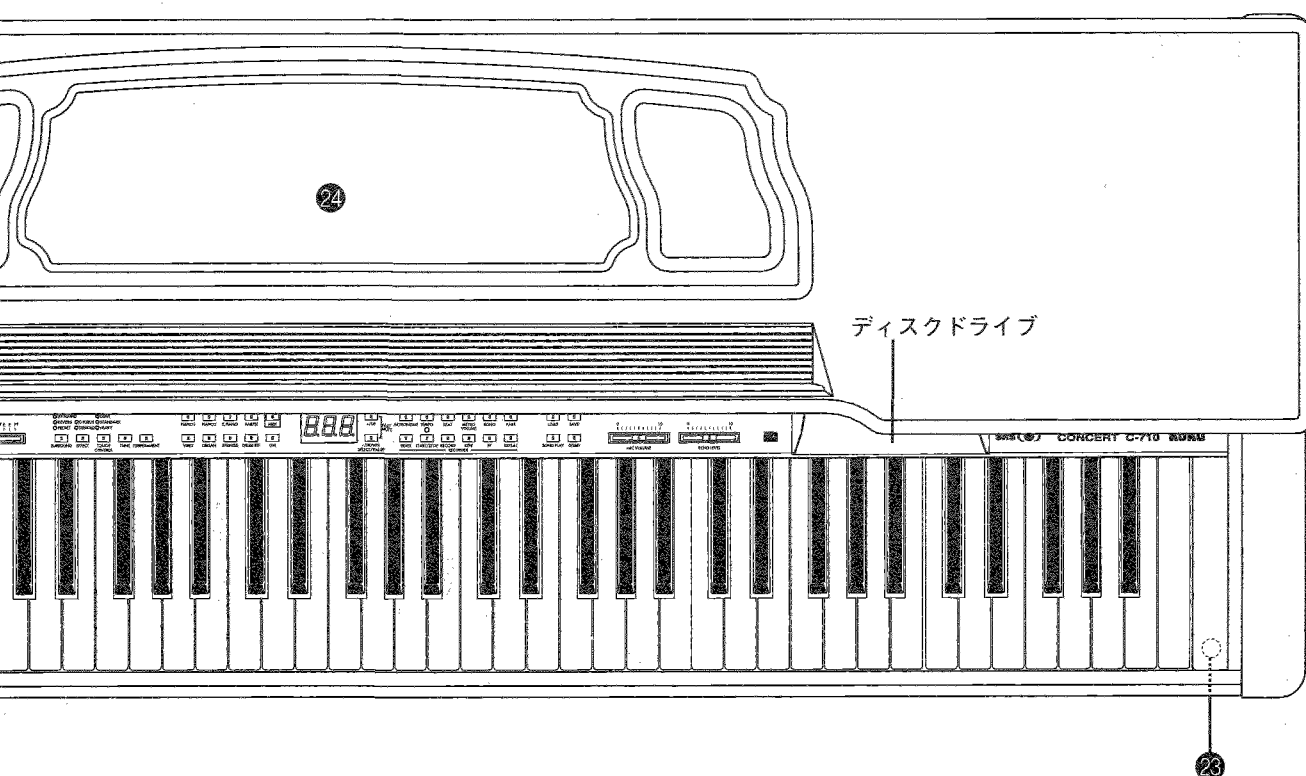
テンポや音色番号などを表示します。

#### ⑫ セレクト/バリュウ

LED画面に表示する、さまざまな値などを設定するスイッチです。  
[+/UP]、[-/DOWN]スイッチ







13 メトロノーム

メトロノームをスタート/ストップするスイッチです。  
[METRONOME]スイッチ (p.13)

14 テンポ、ビート、メトロボリューム

メトロノームの各値を設定するスイッチです。  
[TEMPO]、[BEAT]、[METRO VOLUME]スイッチ (p.13~)

15 ソング、パート

レコーダー使用時やソングプレイ時にソング(曲)やパートの番号を選択するスイッチです。  
[SONG]、[PART]スイッチ (p.18~)

16 レコーダー

演奏を録音/再生するときに使うスイッチです。  
[RESET]、[START/STOP]、[RECORD]、[REW]、[FF]、  
[REPEAT]スイッチ (p.18~)

17 ソングプレイ

スタンダードMIDIファイルのソングファイルを再生するスイッチです。  
[SONG PLAY]スイッチ (p.28~)

18 ロード、セーブ

演奏データをフロッピーディスクから読み込んだり、保存に使うスイッチです。  
[LOAD]、[SAVE]スイッチ (p.27~)

19 デモ

本体に内蔵されているデモ演奏を再生するスイッチです。  
[DEMO]スイッチ (p.9)

20 マイクボリューム、エコーレベル

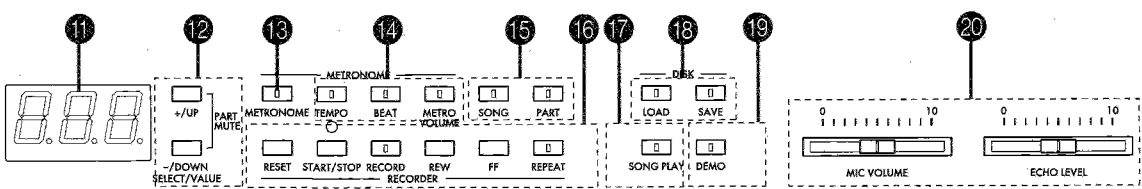
マイク端子にマイクを接続して、カラオケなどを楽しむときに、マイクの音量や、エコーのかかり具合を調整するスライダーです。  
[MIC VOLUME]、[ECHO LEVEL]スライダー (p.31)

21 パワーランプ (p.8)

22 PHONES端子(本体底面にあります。)  
ステレオヘッドホンを接続します。(p.8)

23 マイク端子(本体底面にあります。)  
マイクを接続します。(p.31)

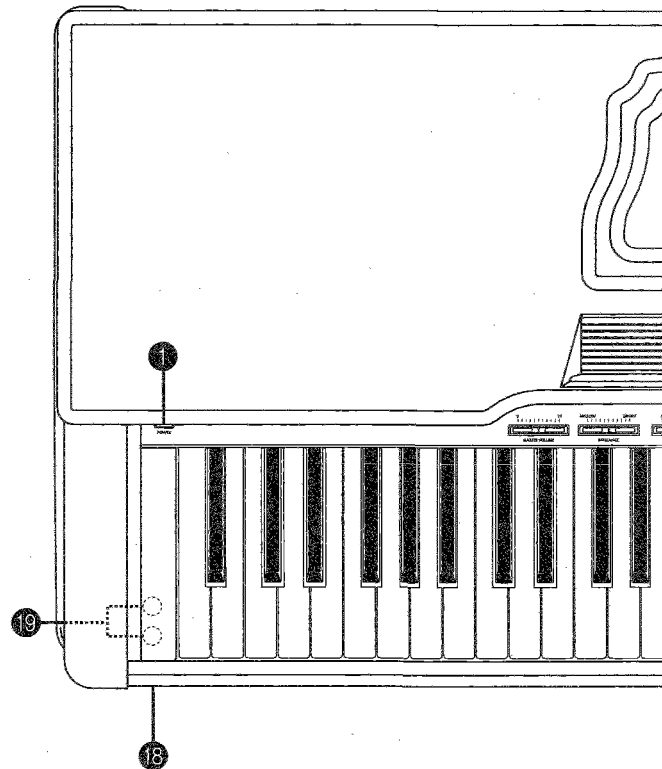
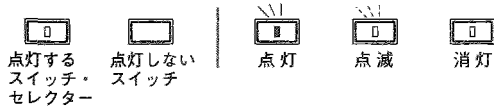
24 譜面立て (p.8)



## 2. C-560各部の名称とその機能

### スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[ ]で括弧しています。  
スイッチランプの点灯・点滅・消灯は次のように表します。



#### ① パワースイッチ

電源をオン、オフします。  
押すたびにオン、オフが切り替わります。  
[POWER]スイッチ (p.8)

#### ② マスターボリューム

スピーカーやヘッドホンから出る音量をコントロールするスライダです。  
[MASTER VOLUME]スライダー (p.8)

#### ③ ブリリアンス

音色の明るさをコントロールするスライダーです。  
[BRILLIANCE]スライダー (p.12)

#### ④ キートランスポーズ

移調を設定するスライダーです。  
[KEY TRANSPOSE]スライダー (p.15)

#### ⑤ サラウンド、エフェクト

音色にさまざまな効果を加えるスイッチです。  
[SURROUND]、[EFFECT]スイッチ (p.12)

#### ⑥ タッチコントロール

鍵盤タッチによる音量変化の度合を設定するスイッチです。  
[TOUCH CONTROL]スイッチ (p.14)

#### ⑦ チューン

ピッチ(音程)を調整するスイッチです。  
[TUNE]スイッチ (p.15)

#### ⑧ テンペラメント

古典調律など音律を選択するスイッチです。  
[TEMPERAMENT]スイッチ (p.16)

#### ⑨ 音色セレクター

音色を選択するスイッチです。  
[PIANO1]、[PIANO2]、[E.PIANO]、[HARPSI]、[VIBES]、  
[ORGAN]、[STRINGS]、[DRUM KIT]、[BASS]スイッチ  
(p.11)

#### ⑩ MIDI(ミディ)

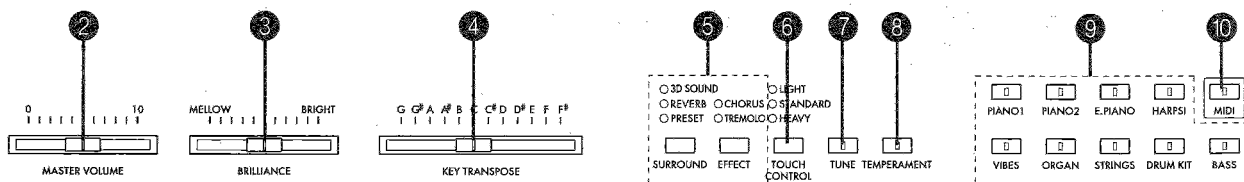
MIDIのさまざまな設定や他のスイッチと組み合わせていろいろな機能を設定するスイッチです。  
[MIDI]スイッチ (p.52)

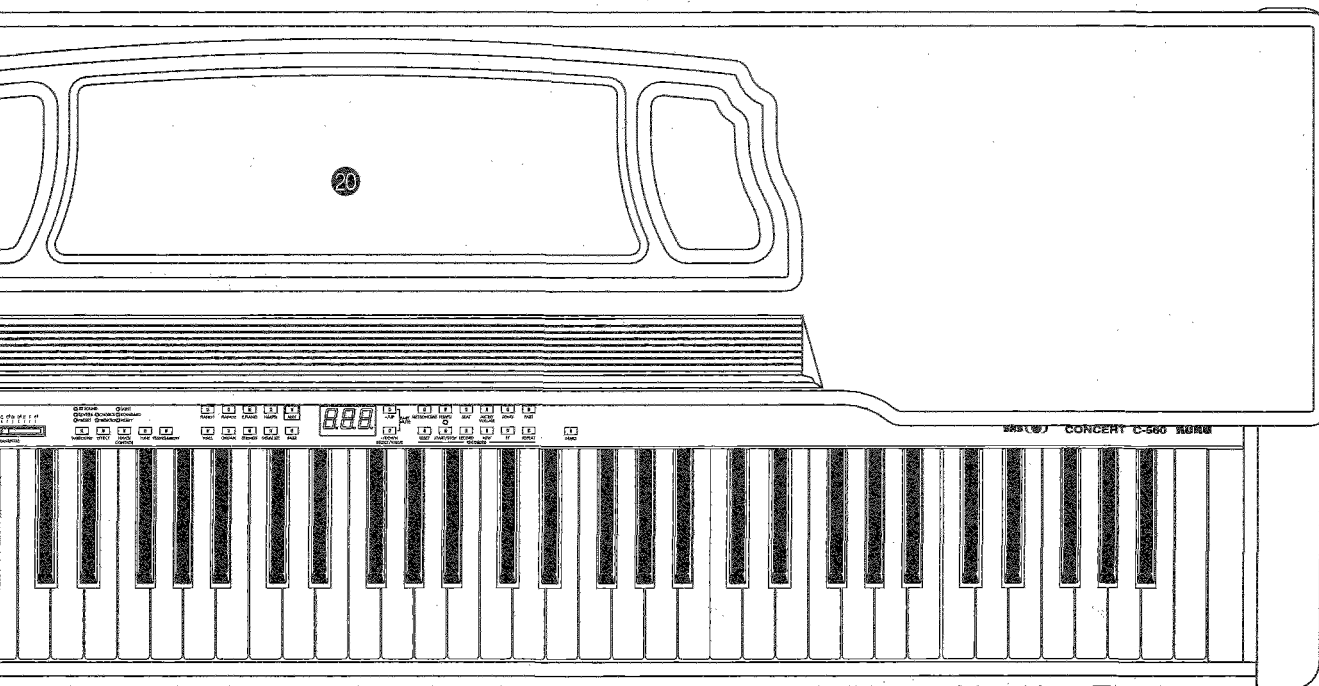
#### ⑪ LED画面

テンポや音色番号などを表示します。

#### ⑫ セレクト/バリュウ

LED画面に表示する、さまざまな値などを設定するスイッチです。  
[+/UP]、[-/DOWN]スイッチ





### 13 メトロノーム

メトロノームをスタート/ストップするスイッチです。

[METRONOME]スイッチ (p.13)

### 14 テンポ、ビート、メトロボリューム

メトロノームの各値を設定するスイッチです。

[TEMPO]、[BEAT]、[METRO VOLUME]スイッチ (p.13～)

### 15 ソング、パート

レコーダー使用時やソングプレイ時にソング(曲)やパートの番号を選択するスイッチです。

[SONG]、[PART]スイッチ (p.18～)

### 16 レコーダー

演奏を録音/再生するときに使うスイッチです。

[RESET]、[START/STOP]、[RECORD]、[REW]、[FF]、[REPEAT]スイッチ (p.18～)

### 17 デモ

本体に内蔵されているデモ演奏を再生するスイッチです。

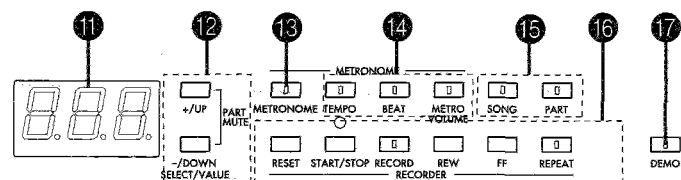
[DEMO]スイッチ (p.9)

### 18 パワーランプ (p.8)

### 19 PHONES端子 (本体底面にあります。)

ステレオヘッドホンを接続します。(p.8)

### 20 譜面立て (p.8)

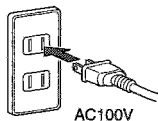


### 3. 演奏するための準備

#### 1. 電源コードを差し込みます

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

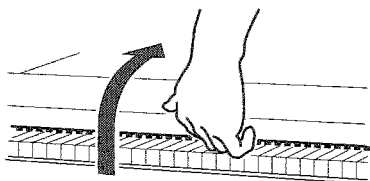
必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。




#### 2. キーカバーを開けます


へりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。

キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。



 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。


 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。

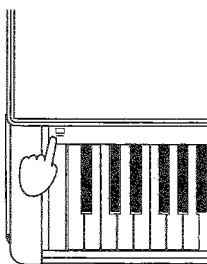
 C-710のキーカバー開閉時はフロッピーディスクが中途半端に飛び出した状態で行わないでください。

#### 3. 電源をオンにします

##### 1. [POWER]スイッチを押して、電源をオンにします。

電源をオンにすると、正面左側にあるPOWERランプが点灯します。

 このときペダルの初期化を行っていますので、LED画面に数字が表示されるまではペダルをふまないでください。



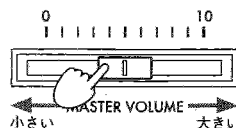
##### 2. 電源をオフにするときはもう一度[POWER]スイッチを押します。

電源をオフにすると、正面左側にあるPOWERランプが消灯します。

#### 4. 音量を調節します

[MASTER VOLUME]スライダーを中程まで上げます。スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。

[MASTER VOLUME]スライダーは、本体のスピーカーとヘッドホン端子、リアパネルの[OUTPUT]端子から出力される音量をコントロールします。



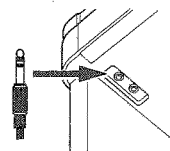
#### ■ヘッドホンを使うときは

ヘッドホンを差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。


夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

本体左側底面にあるヘッドホン端子に、ステレオヘッドホンのプラグ(標準プラグ)を差し込みます。

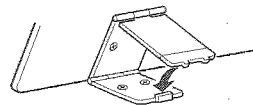


ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドフォンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグ側の根本部分を持って行ってください。

 ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間聞かないでください。

#### ■譜面立てを使うときは

譜面立てを起し、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。



## 4. デモ演奏を聴いてみましょう

本体に音色セレクターの音色デモを8音色、ピアノ曲デモを6曲内蔵(C-710は10曲入デモディスクも付属、10ページ参照)しています。

デモ演奏を聴いてC-710/C-560の豊かな音色とその表現力を確認してください。

### 1. [DEMO]スイッチを押します。

[DEMO]スイッチの赤のランプが点灯し、[START/STOP]スイッチのランプが点滅して、[音色セレクター]スイッチのランプが順番に点灯します。また、LED画面にはピアノ曲デモの選択待ち状態で点滅表示されます。

- ピアノ曲デモ(6曲)と音色デモ(8曲)を続けて聴きたいときは、[DEMO]スイッチを押したあと、デモ曲を選ばずに[START/STOP]スイッチを押します。演奏を止めたいときは[START/STOP]スイッチを押します。
- サラウンドを“3D SOUND”または“PRESET”のいずれかに設定できます。エフェクトは自動的に適した設定になり変更できません。

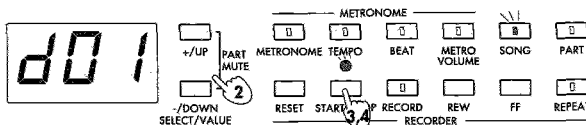
### ピアノ曲デモを聴きたいときは

ピアノ曲デモは、演奏練習に使えるように、演奏中[START/STOP]スイッチを押すと一時停止することができます。

### ピアノ曲デモリスト(本体内蔵)

番号	曲名
d01	L.v.ベートーヴェン/エリーゼのために
d02	F.メンデルスゾーン 春の歌 Op.62-6~無言歌集第6巻より
d03	F.ショパン ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」Op.64-1
d04	W.A.モーツァルト ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」
d05	F.ブルグミュラー/ブルグミュラー25のやさしい練習曲より「貴婦人の乗馬」
d06	A.エルメンライヒ/紡ぎ歌

- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押してLED画面に聴きたい曲番号を表示します。
- [START/STOP]スイッチを押すと、デモ曲の演奏が始まります。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが赤、緑で点滅します。
- 演奏を止めたいときは[START/STOP]スイッチを押します。



- デモ演奏を聴き終えたら、演奏を止めて[DEMO]スイッチを押します。  
[DEMO]スイッチのランプが消灯します。

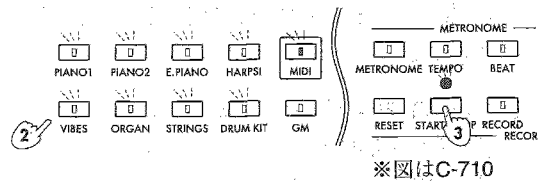


### 音色デモを聴きたいときは

#### 音色デモリスト

スイッチ	曲名
PIANO1	F.ショパン/ スケルツォ 第2番 変ロ短調 Op.31
PIANO2	KORGオリジナル/Harmony of Love
E.PIANO	KORGオリジナル/風のハーブ
HARPSI	J.S.バッハ/イタリア協奏曲 BWV971
VIBES	N.リムスキー=コルサコフ/熊蜂の飛行
ORGAN	F.メンデルスゾーン/ウェディング・マーチ
STRINGS	J.S.バッハ/G線上のアリア
DRUM KIT	KORGオリジナル/Splendid View

- 順番に点灯している[音色セレクター]スイッチの中から、聞きたい音色のスイッチを押すとデモ演奏が始まります。  
選んだ音色デモから順番にくり返し演奏します。
- 演奏を止めたいときは[START/STOP]スイッチまたは点滅している[音色セレクター]スイッチを押します。



※図はC-710

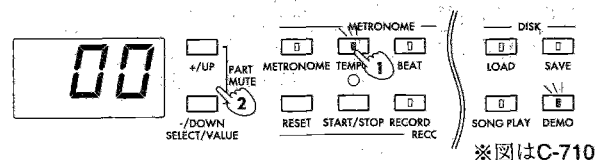
- デモ演奏を聴き終えたら、演奏を止めて[DEMO]スイッチを押します。  
[DEMO]スイッチのランプが消灯します。



## デモ演奏のテンポをかえてみましょう


- デモ演奏が行なわれているとき、または止まっているときに[TEMPO]スイッチを押します。  
[TEMPO]スイッチのランプが点灯して、LED画面がテンポの増減表示になります。
- [+/UP]または[-/DOWN]スイッチを押すとテンポを増減できます。  
このときLED画面に表示される-99~99は、演奏されているテンポに対する比率(%)表示になります。

[SONG]スイッチを押すともとのデモ演奏LED画面に戻ります。



※図はC-710

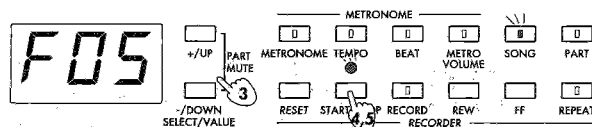
## 付属のデモディスクの演奏を聴いてみましょう(C-710のみ)

 ここでの操作を行う前に「ディスクドライブをお使いになる前に」(3ページ)をお読みください。

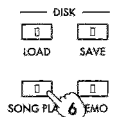
### デモ曲リスト(CFD-02P)


番号	曲名
F01	G.ガーシュイン/ラブソディー・イン・ブルー
F02	F.ショパン/ポロネーズ イ長調「軍隊」Op.40-1
F03	F.リスト/愛の夢 第3番
F04	M.ムソルグスキー/展覧会の絵～プロムナード
F05	KORGオリジナル/Ragtime Paradise
F06	KORGオリジナル/8 Beat 1
F07	KORGオリジナル/Mambo 1
F08	KORGオリジナル/Dance Pop
F09	J.シュトラウス1世/T.アレキサンダー:編曲/ラデツキー行進曲 Op.228
F10	T.アレキサンダー/Classitalio


1. 付属のデモディスクをC-710のディスクドライブに挿入します。
2. [SONG PLAY]スイッチを押します。  
[SONG PLAY]スイッチのランプと[SONG]スイッチのランプが点灯し、ディスクを認識後、LED画面にはフロッピーディスクに収録されているデモ演奏の曲番号(F01)が表示されます。
3. 聴きたい曲番号を[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、選びます。
4. [START/STOP]スイッチを押すと、デモ演奏が始まります。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが点滅し始めます。  
選んだ曲の再生が終わると、自動的に次の番号の曲が再生されます。  
F10番の曲まで再生し終わると止まります。
5. 演奏を終了するときには[START/STOP]スイッチを押します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。



6. デモ演奏を聴き終わったら、演奏を止めて[SONG PLAY]スイッチを押します。  
[SONG PLAY]スイッチのランプが消灯します。



 付属のデモディスクに収録されているソングファイルは独自のフォーマットで保存されていますので、他の製品では使用できません。

 付属のデモディスクはフォーマットしないでください。フォーマットを行うと記録されているデモソングはすべて消去されます。

### ソングプレイについて

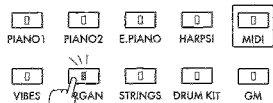
スタンダードMIDIファイル(SMF)などのソングファイルを、フロッピーディスクから直接読み込んで再生します。市販のSMF/GMデータなどもこのソングプレイモードで手軽に再生することができます(28ページ参照)。マイクをC-710の右側底面のマイク端子に接続して、これらの演奏に合わせてカラオケを楽しむことができます(31ページ参照)。

## 1. 音色を選びます

C-710には143音色、C-560には16音色が内蔵されています。

[音色セクター]を押して、弾きたい音色を選びます。

選んだ[音色セクター]のランプが点灯し、その音色で演奏することができます。



※図はC-710

音色	音の特徴
PIANO 1(ピアノ1)	広がり感のある豊かなアコースティックピアノの音
PIANO 2(ピアノ2)	落ち着いた感じのアコースティックピアノの音
E.PIANO (エレクトリックピアノ)	軽やかに透明感のあるエレクトリックピアノの音
HARPSI(ハーブシコード)	クラシックな趣のある繊細なハーブシコードの音
VIBES(ビブラフォン)	まろやかなビブラフォンの音
ORGAN(オルガン)	荘厳なパイオルガンの音
STRINGS(ストリングス)	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音
DRUM KIT(ドラムキット)	C-710 GM kitと独自構成による7ドラムキットの合計8音色 C-560 GMに準拠したGM kitの1音色
GM(ジェネラルミディ)	C-710 GMに準拠した128音色
BASS(ベース)	C-560 アコースティックベース、シンセベース等の8種類のベース音

[PIANO1]と[GM](C-710)と[BASS](C-560)の一部の音色(49ページ参照)では最大同時発音数は16音になります。それ以外の音色では32音です。

電源オン時の音色はC-710は[PIANO1]が選ばれます。C-560は電源オフ直前のソング1のパート1に設定していた音色が選ばれます。

### 音色グループから音色を選ぶには

C-710の[DRUM KIT]と[GM]、C-560の[BASS]には複数の音色が入っています。

そのなかから1つの音色を選び演奏することができます。

1. 複数の音色が入っている[音色セクター]を押します。  
選んだ[音色セクター]のランプが点灯し、LED画面には現在選ばれている音色番号が表示されます。

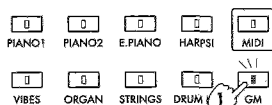
2. [+UP]スイッチまたは[-DOWN]スイッチを押して、音を選びます。

音色のリストは49ページをご覧ください。

[+UP]スイッチまたは[-DOWN]スイッチを1回押すたびに音色番号が1ずつ増減します。

また、現在選んでいる(ランプが点灯している)[音色セクター]を押しながら、[+UP]スイッチまたは[-DOWN]スイッチを押すと、音色番号が10ずつ増減します。

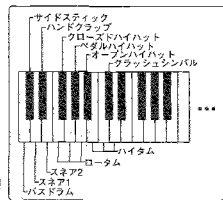
10以上の音色番号がない音色では最後の番号が選ばれます。



※図はC-710

DRUM KIT(ドラムキット)とは?

鍵盤ごとにスネアやハイハットなどのドラムサウンドを右図のように割り当てたものです。(50ページ参照)



(例)

GM(ジェネラルミディ)とは?

C-710はGMシステムに準拠しています。



GM(General MIDI System Level 1)とは、メーカーや機種を越えて音源の音色配列などを標準化するために定められた世界標準の規定です。

GMに準拠したMIDI音源、曲データには“GM”マークが付けられており、このマークが付いた曲データであれば、“GM”マークの付いたどの音源でも、ほぼ正確な演奏を再現することができます。

C-710では[GM]の128個の音色、[DRUM KIT]の“01”(GM Kit)の音色がそれに当たります。

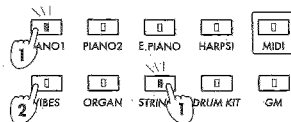
### 2つの[音色セクター]を同時に鳴らすには

1つの鍵盤を打鍵したときに、2つの[音色セクター]の音色(たとえば[PIANO1]と[STRINGS])を同時に鳴らすことができます。これをレイヤー機能といいます。

1. 組み合わせたい2つの[音色セクター]の一方を押しながら、もう一方を押します。

選んだ2つの[音色セクター]スイッチのランプ

が点灯し、打鍵時には両方の音色が同時になります。



※図はC-710

[DRUM KIT]は選べません。はじめに押した[音色セクター]の[SURROUND]と[EFFECT]の効果(12ページ参照)がかかります。

レイヤーにすると、同時に2つの音色を発音するため、最大同時発音数が少なくなります。

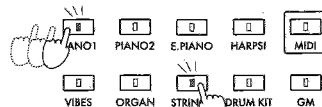
本体レコーダーを使う際に、レイヤーを選ぶといくつかの制約を受けます。20ページをご覧ください。

2. [音色セクター]を一つだけ押すと、レイヤーが解除されます。

### 2つの音色の音量バランスを変えるには

音量を小さくしたいほうの[音色セクター]を押しながら、音量を大きくしたい[音色セクター]を繰り返し押します。押すたびに繰り返し押している[音色セクター]の音色の音量が大きくなります。

ボリュームバランスは、レイヤーを解除したあとも記憶されています。



※図はC-710

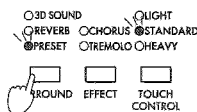
## 2. 音色に残響や広がりを与えます

### 音に残響を与えるには

[音色セレクター]で選んだ音色に残響を与え、心地よいサウンドにします。(サラウンド効果)

[SURROUND]スイッチを押して、加えたい効果を選びます。

押すたびにスイッチ上のランプが次々に点灯して効果が加わります。



サラウンド	効果の特徴
3D SOUND (3D サウンド)	3次元の立体音響で臨場感あふれる音場が得られます。音色を複数使ったレイヤー、アンサンブル演奏に効果的です。3D SOUNDはSRS Labs, Inc.のSRS技術を使用しています。
REVERB (リバーブ)	コンサートホールの客席で演奏を聴いているときのような響きが得られます。
PRESET (プリセット)	各音色に最適な効果が得られます。[PIANO1]または[PIANO2]を選び、ダンパーペダルを踏むとアコースティックピアノの響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。
OFF (オフ)	サラウンド効果はかかりません。(ランプ消灯)

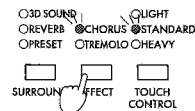
一部の音色は、“3D SOUND”を選んでも十分な効果が得られません。

### 音に広がりを与えるには

[音色セレクター]で選んだ音色にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにします。(モジュレーション効果)

[EFFECT]スイッチを押して、加えた効果を選びます。

押すたびにスイッチ上のランプが次々に点灯して、効果が加わります。



エフェクト	効果の特徴
CHORUS (コーラス)	音が広がるような効果が得られます。
TREMOLO (トレモロ)	左右に音が行き交うような効果が得られます。
OFF (オフ)	モジュレーション効果はかかりません。(ランプ消灯)

[SURROUND]で“PRESET”または、“3D SOUND”を選ぶと[EFFECT]スイッチのランプが消灯し、[SURROUND]と同様に音色に最適な効果がかけられます。

[SURROUND]と[EFFECT]の効果は[音色セレクター]ごとに設定することができます。以後その[音色セレクター]を選ぶたびに、自動的に同じ効果が設定されます。

C-710は電源オフ直前に[PIANO1]で設定していた効果が選ばれます。C-560は電源オフ直前のソング1のパート1に設定していた効果が選ばれます。

### 音の明るさを変えるには

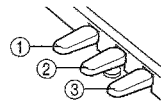
[BRILLIANCE]スライダーを右“BRIGHT”側に動かすと音が明るい感じの音になり、左“MELLOW”側に動かすとやわらかい感じの音になります。

C-710の[GM]の音色には[SURROUND]が“PRESET”または、“REVERB”のときはやわらかい[RILLIANCE]明るく、[BRILLIANCE]スライダーは働きません。



## 3. ペダルを使った効果

本機には、ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルがあります。これらのペダルを使って演奏に効果を出します。



### ①ソフトペダル

ペダルを踏んでいる間は音がやわらかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます(ハーフペダル効果)。

### ②ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音には効果はかかりません。

### ③ダンパーペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかけ具合を変化させることができます(ハーフペダル効果)。  
[PIANO1]と[PIANO2]の音色のときに[SURROUND]を“PRESET”にすると、ペダルを踏み込んだときにアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。

### レイヤー時のペダルの設定

レイヤー時の二つの音色のうち、どちらの音色にダンパーペダルの効果をかけるかを設定します。たとえばピアノの音色にダンパーペダルの効果をかけ、ストリングスの音色にはダンパーペダルの効果をかけないで演奏することができます。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、ダンパーペダルを踏みます。

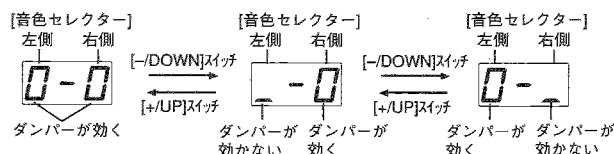
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、LED画面に次のように表示されます。

LED画面の左が[音色セレクター]の左側の設定で、右が[音色セレクター]の右側の設定です。

“0”でダンパーが効き、“-”はダンパーが効きません。

[音色セレクター]音色の下段の音色は[VIBES]、[ORGAN]、

[STRINGS]、[BASS]の順で[HARPSI]の右側の音色となります。



2. [+UP]スイッチまたは[-DOWN]スイッチを押して、設定を選びます。

電源を再度オンにすると2つの[音色セレクター]にダンパー効果がかかります。



## 4. メトロノームに合わせて演奏 します

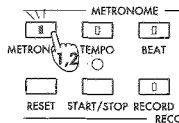
正確なテンポに合わせて演奏するときなどにメトロノームを使います。

このメトロノームは次章で説明するレコーダーの拍子やテンポの基準になります。

### メトロノームを鳴らすには


1. [METRONOME]スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。

[METRONOME]スイッチのランプが点灯します。



2. もう一度[METRONOME]スイッチを押すと、メトロノームがストップします。

[METRONOME]スイッチのランプが消灯します。

 メトロノームを鳴らすと、メトロノーム用に1音使われるため、最大同時発音数が1音分少なくなります。

### テンポを調節するには

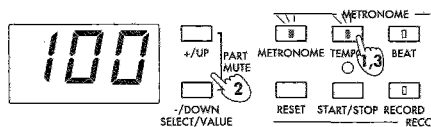
1. [TEMPO]スイッチを押します。

[TEMPO]スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームのテンポが表示されます。設定できる範囲は♩=30~250です。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、テンポを調節します。

[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

また、[TEMPO]スイッチを押しながら[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。

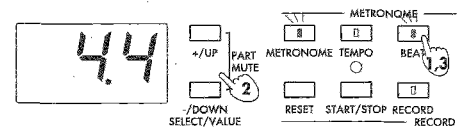
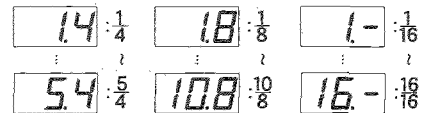


### 拍子を設定するには

1. [BEAT]スイッチを押します。

[BEAT]スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの拍子が表示されます。


設定できる拍子は、1/4~5/4、1/8~10/8、1/16~16/16です。下のように表示されます。



2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、拍子を設定します。

[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。

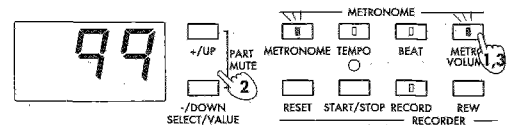
押し続けると連続的に増減します。

 テンポ、拍子は各ソングごとに設定できます。

### 音量を調節するには

1. [METRO VOLUME]スイッチを押します。

[METRO VOLUME]スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの音量が表示されます。設定できる音量は0(最小)~127(最大)です。



2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音量を調節します。

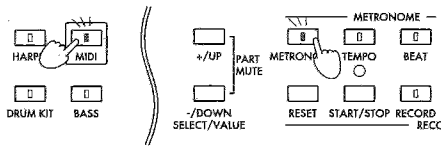
[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

また、[METRO VOLUME]スイッチを押しながら[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。

### 拍子のアクセント音を選択するには

拍子のアクセント音(強拍)をベルの音か、通常の外ロノーム音にするか、またはアクセント音の鳴らない(弱拍のみ)ようにします。

[MIDI]スイッチを押しながら[METRONOME]スイッチを押すと、押すたびに設定が次のように切り替わります。  
[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[METRONOME]スイッチのランプが設定によって点灯、消灯または点滅します。



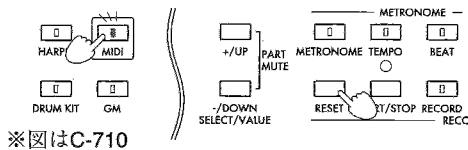
アクセント音	ランプ
ベルの音	点灯
通常の外ロノーム音	消灯
アクセント音無し	点滅

**!** アクセント音にベルを選ぶとパート16がミュートされます。

- 電源を入れ直すと、C-710はテンポ“120”、拍子“4/4”、音量“127”に設定されます。アクセント音については電源オフ直前の設定を記憶しています。  
C-560はテンポは“120”で、拍子、音量、アクセント音については電源オフ直前の設定を記憶しています。テンポはソング1を録音や再生をした場合は、その時の値になります。

### 音色などが思うとおりに設定できないときは

本機のさまざまな機能を使い進めていくうちに、音色が思うとおりに設定できなくなることがあるかもしれません。  
そのようなときは次の操作(初期化)をしてから音色などを選び直してください。  
この操作をしたときに設定し直される内容については55ページをご覧ください。



[MIDI]スイッチを押しながら、[RESET]スイッチを押します。

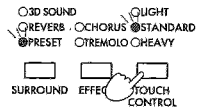
**!** 上の操作をすると、ペダルの設定も初期化されます。  
操作中はペダルを踏まないでください。

## 5. 鍵盤のタッチ感を変えます

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。

これをタッチコントロール機能といいます。

[TOUCH CONTROL]スイッチを押すたびに、設定が順番に切り替わります。



タッチコントロール	説明	音の強弱 vs 打鍵の強さ
LIGHT	弱く弾いてもフォルテシモ (ff) が出せるタッチです。	Graph showing a curve where volume increases rapidly from weak to strong strikes, reaching a high level (ff).
STANDARD	通常のピアノタッチです。	Graph showing a linear relationship between strike strength and volume.
HEAVY	強く弾かないとフォルテシモが出せないタッチです。 ピアノシモ (pp) からフォルテシモまでダイナミックに表現できます。	Graph showing a curve where volume increases slowly from weak strikes and then rises sharply for strong strikes.

- 電源をオンにした直後は、自動的に“STANDARD”に設定されます。  
この機能では鍵盤自体のタッチの重さは変わりません。

## 6. 弾きやすく、歌いやすくします (移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、キー(調)が低すぎたり高すぎたりして他の楽器や歌に演奏が合わせられないときがあります。

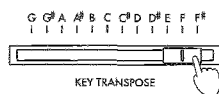
このようなときに、キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができるようになります。

これをキートランスポーズ機能といいます。通常は“C(ド)”の位置でお使いください。

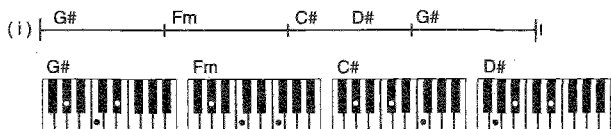
[KEY TRANSPOSE]スライダーを移調したいキーに移動します。

“C(ド)”の鍵盤に、[KEY TRANSPOSE]スライダーで設定したキーが割り当てられます。

設定の範囲は、半音単位で11半音{G(-5)~F#(+6)}です。

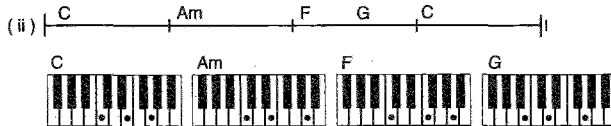


例1) [KEY TRANSPOSE]スライダーを“F”に設定した場合、“C(ド)”の鍵盤を押すと“F(ファ)”の音で鳴ります。



例2) 黒鍵を多く使うコードをトランスポーズ機能を使って、これをもっと弾きやすい調に直します。

曲の全体を半音4つ分だけ高くすれば、コードは次のようになります。



こちらのほうがずっと弾きやすくなりますが、このまま弾くと当然もとの曲よりも高い音になってしまいます。

本機から出る音の高さを逆に半音4つ分だけ低く、つまり[KEY TRANSPOSE]スライダーを“G#”に設定すると(i)の音程で音が出ます。

例3) 曲の調子を半音上げて演奏するには、[KEY TRANSPOSE]スライダーを“C#”に設定します。半音下げの場合は“B”に設定します。

## 7. 音程のずれを微調整します

ピッチ(音程)の微調整を行ないます。

他の楽器と合奏するときなどに、楽器間の微妙な音程のずれを調整します。

427~453Hz(ヘルツ)の範囲で設定できます。

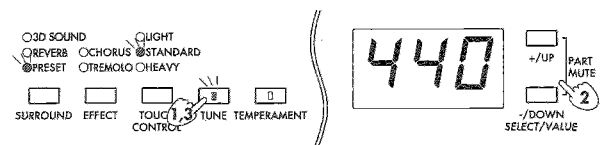
またもう少し細かく調整するために±50cent(セント)の範囲で設定もできます。

1. [TUNE]スイッチを押します。

[TUNE]スイッチのランプが点灯し、LED画面には現在のチューニング値が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、ピッチを調整します。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。



**Hz(ヘルツ)**:高さを示す絶対値の単位です。

各楽器のピッチを合わせるために、ピアノの中央のA4(ラ)=440Hzが基準ピッチとして用いられています。

この基準ピッチは地域や時代によって多少異なり、近年ではやや高め(ピッチ(A4=441~444Hz))で調整されることが多くなってきています。

**cent(セント)**:音の高さの比率を示す最小の単位です。

半音が100セント、1オクターブが1200セントです。

1セントは非常に小さな単位ですので±3セント程度の差はあまり問題になりません。

## “ヘルツ”単位と“セント”単位を切り替えるには

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[TUNE]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[TUNE]スイッチのランプが点滅します。

LED画面には現在のチューニング値(“セント”または“ヘルツ”)が表示されます。

2. [-/DOWN]スイッチを押すと“セント”単位に、[+/UP]スイッチを押すと“ヘルツ”単位に切り替わります。



“セント”単位から“ヘルツ”単位の表示に切り替えると、現在の“セント”での設定に最も近い“ヘルツ”表示になり、チューニングの値もその高さになります。

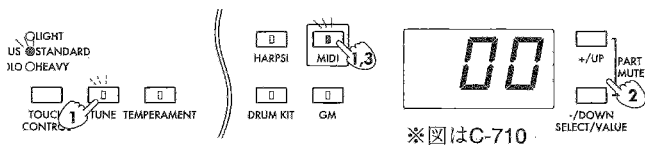
3. チューニングする単位を選んだら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチと[TUNE]スイッチのランプが消灯し、“操作1”を行う前の設定画面に戻ります。

そのため“操作1”を行う前に[TUNE]スイッチを押していれば[TUNE]スイッチのランプが点灯し、LED画面には切り替えた現在の単位が表示されます。

4. [TUNE]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、チューニング値を調整します(前項操作参照)。

● チューニング値は、電源をオフにした後にも記憶されています。



## 8. 音律を選びます

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。

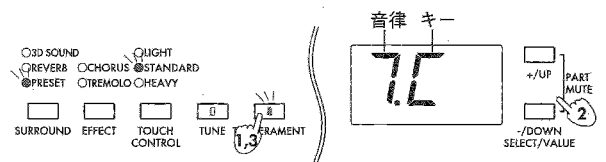
これらの曲の持つ本来の響きを再現するためにキルンベルガーや、ヴェルクマイスターなどの古典音律が用意されています。

その他にもアラビアや、インドネシア特有の音律が用意されています。

1. [TEMPERAMENT]スイッチを押します。

[TEMPERAMENT]スイッチのランプが点灯し、現在選ばれている音律の番号がLED画面に表示されます。

キー(調)の設定が必要な音律には音律番号の右側にキーが表示されます。



LED	音律名	キー	説明
0.	平均律		鍵盤楽器に最も幅広く用いられている通常の音律です。これは半音階が均等に配列されているため、どのキーでも均一のスケールで演奏することができます。
1.	平均律 (ランダム)		平均律のピッチが若干不規則にずれます。音程が自然と不規則になりがちなアコースティック楽器を再現するのに向いています。
2.	純正律 長音階	○	“キー”で設定した主調和音のメジャーコードが完全に調和する音律です。
3.	純正律 短音階	○	“キー”で設定した主調和音のマイナーコードが完全に調和する音律です。
4.	アラビック (1/4)	○	アラビア音楽の1/4トーン音律です。 rast do/bayati reにはキーをC(ド)に、 rast re/bayati miにはD(レ)、 rast fa/bayati solにはF(ファ)、 rast sol/bayati la にはG(ソ)、 rast si b/bayati doにはA#(ラ#)を設定します。
5.	ピタゴラス	○	古代ギリシャの音律で、メロディー演奏に効果的です。
6.	ヴェルク マイスター	○	バロック時代の後期に用いられた平均律的な音律です。
7.	キルン ベルガー	○	主にハープスコードの調律に用いられている18世紀に考案された音律です。
8.	スレンドロ	○	1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音律です。 キーがCのとき、C、D、F、G、A(ド、レ、ファ、ソ、ラ)の各鍵を使用します。
9.	ペログ	○	1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音律です。 キーがCのとき、C、D、E、F、G、A、B(ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ)の各鍵を使用します。

2. [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音律を選びます。

[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。

押し続けると連続的に増減します。

3. [TEMPERAMENT]スイッチを押します。  
[TEMPERAMENT]スイッチのランプが消灯して、LED画面がもとに戻ります。

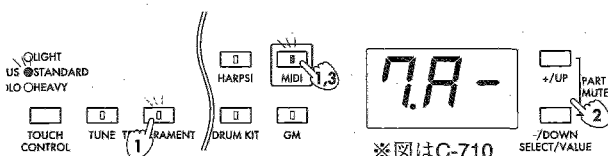
### キー(調)を設定するには

前ページ表のキーの項目に“○”がついている音律では、演奏する曲の調に合った“キー”を設定します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[TEMPERAMENT]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[TEMPERAMENT]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面には現在選ばれている音律の番号とキーが表示されます。

LED	キー	調
$\square$	C	ハ
$d-$	D $b$ (#C)	変ニ(嬰ハ)
$d$	D	ニ
$E-$	E $b$ (#D)	変ホ(嬰ニ)
$E$	E	ホ
$F$	F	ヘ
$G-$	G $b$ (#F)	変ト(嬰ヘ)
$G$	G	ト
$A-$	A $b$ (#G)	変イ(嬰ト)
$A$	A	イ
$b-$	B $b$ (#A)	変ロ(嬰イ)
$b$	B	ロ

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、キーを設定します。



[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。  
押し続けると連続的に増減します。

3. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。  
[MIDI]スイッチのランプが消灯し、“操作1”を行う前の設定画面に戻ります。

● 音律とキーは、電源をオフにすると、平均律と設定なしに戻ります。

### ストレッチチューニングについて

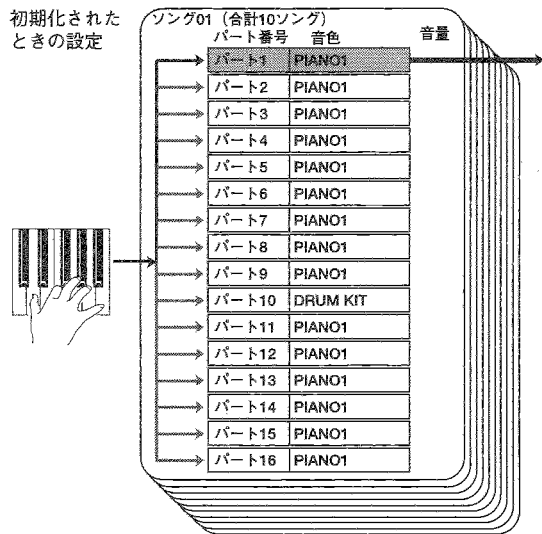
[PIANO1]、[PIANO2]では、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整されています。

# 演奏を録音/再生してみましょう

## 1. 演奏を録音します

本機のリコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。10のソング(曲)を録音でき、1つのソングには16のパートがあります。

これらのパートそれぞれに演奏を録音でき、それを同時に再生することができます。



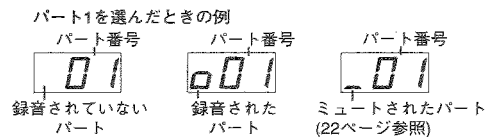
初期化されたときの設定

**工場出荷時にはメトロノームにベル音が設定されているため、パート16は使用できません。**  
ベル音の設定を解除するとパート16が表示され、パート16の録音/再生が行えます(14ページ参照)。

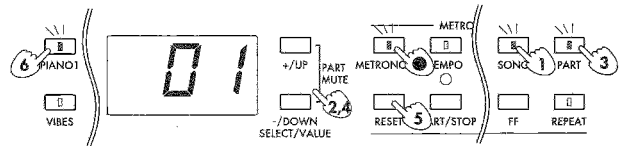
● C-710をご使用になる場合は、フロッピーディスクをディスクドライブにセットします。

**フロッピーディスクは市販の3.5インチのものをご使用ください(3ページ参照)。**  
新しいフロッピーディスクをご使用になる場合は必ずフォーマットをしてください(27ページ参照)。  
C-710は電源をオフにするとリコーダーに録音した演奏データのすべてが失われてしまいます。  
そのため大切な演奏データはこまめに保存することをお勧めします。

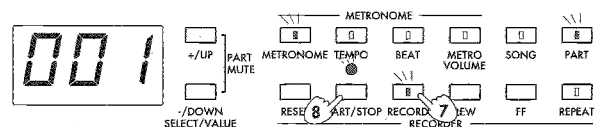
1. [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音するソングを選びます。  
[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびにソング番号が1ずつ増減します。  
押し続けると連続的に増減します。
3. [PART]スイッチを押します。  
[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)が表示されます。  
また、パート番号の左側に選ばれているパートの状態が表示されます。



4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音するパートを選びます。  
通常は録音されていないパートを選びます。  
録音をやり直すときは録音された同じパートを選びます。  
押し続けると連続的に増減します。
5. [RESET]スイッチを押します。  
[RESET]スイッチを押すと曲の最初に移動します。
6. [音色セクター]で音色を選びます。  
再生時には、ここで選んだ音色が選ばれます。  
レイヤーにして録音する場合は20ページをご覧ください。  
録音が始まってから[音色セクター]を押して音色を切り替えることができます。  
ただし、レイヤーは選べません。  
再生時には、録音中に[音色セクター]を押した位置で音色が自動的に切り替わります。



- メトロノームに合わせて演奏を録音する場合は、[METRONOME]スイッチを押して、メトロノームを鳴らしてください。  
必要に応じて拍子、テンポやボリュームを調節してください(13ページ参照)。
  - 録音する演奏のタイミングを補正(クオンタイズ)することができます。詳しくは23ページをご覧ください。
7. [RECORD]スイッチを押します。  
[RECORD]スイッチのランプが点灯します。  
この状態ではソング番号、パート番号を変更することはできません。  
変更する場合は、もう一度[RECORD]スイッチを押して録音待機の状態を解除してください。



**録音中は絶対に電源をオフにしないでください。**

8. 鍵盤を押すか、[START/STOP]スイッチを押すと、録音が始まります。

鍵盤を押すと、同時に録音が始まります。

[START/STOP]スイッチを押すと、2小節のカウント(LED画面に“-02”→“-01”表示)後、録音が始まります。

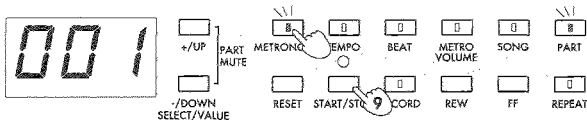
録音している間は、[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて拍子の頭では赤色に、それ以外では緑色に点滅します。

9. [START/STOP]スイッチを押すと、録音が終わります。ここでの操作は、C-710とC-560では異なります。

#### ☞ C-560の場合

[START/STOP]スイッチ上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯し、自動的に録音を開始した小節に移動します。

メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。



#### ☞ C-710の場合

[START/STOP]スイッチ上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯します。

そして[SAVE]スイッチのランプが点滅し、LED画面にはディスクを認識後、ファイル番号“F01”が表示され、今録音した演奏データをフロッピーディスクに保存するようにメッセージを出します。

フロッピーディスクが挿入されていないときは、LED画面に“nod”が表示され、[SAVE]スイッチのランプが消灯します。

保存するには(フロッピーディスクがディスクドライブにセットされているときは)

① [+UP]スイッチまたは[-DOWN]スイッチを押して、保存するファイル番号をLED画面で選びます。

保存しようとしているファイル番号にデータがすでに書き込まれている場合は、LED画面のファイル番号が点滅します。

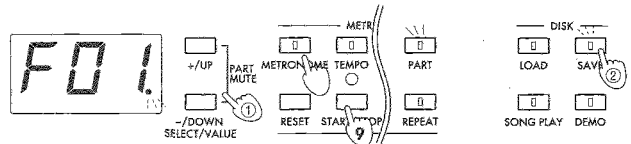
取っておきたいデータが入っている場合は、他のファイル番号を選んでから、次の操作②に進んでください。

点滅しているファイル番号のファイルを消して、そのうえにファイルを保存してもよい場合は、そのまま次の操作②に進んでください。

上書きした場合、元のファイル(1ファイルは10ソングです)は永久的に失われてしまいます。

② [SAVE]スイッチを押すと、保存が実行されます。

保存が終了すると[SAVE]スイッチのランプが消灯し、自動的に一番始めの小節に移動します。メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。



フロッピーディスクを、ディスクドライブに挿入していないときは27ページをご覧ください。

保存しないときは

● [RESET](または[MIDI])スイッチを押します。

[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯し、自動的に一番始めの小節に移動します。

メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。

録音を開始した小節から演奏を確認したいときは[RESET]スイッチを押さず、そのまま[START/STOP]スイッチを押してください。

#### ▲ C-710での録音後の注意

C-710のレコーダーに録音した演奏データは次の操作を行うと失われます。

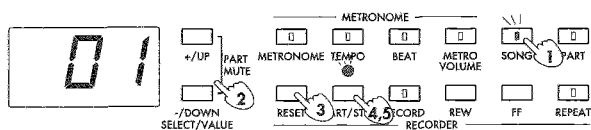
大切な演奏データは本体のフロッピーディスクやデータファイラーに保存してください(27、35ページ参照)。

- ・電源をオフにする。
- ・フロッピーディスクから曲を読み込む(28ページ参照)。
- ・ソングプレイでフォーマット1のデータを再生する(28ページ参照)。

C-560は電源を切っても演奏データは保存されています。

## 2. 演奏を再生します

- [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、再生するソングを選びます。
- [RESET]スイッチを押します。  
[RESET]スイッチを押すと、小節の最初に戻ります。
- [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が始まります。  
再生されている間は[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。



- [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。また、ソングのデータがすべて再生し終わっても同様に演奏が停止して[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。

### 演奏の速さ(テンポ)を変えるには

[TEMPO]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押してLED画面に表示されるテンポを変えます(13ページ参照)。曲のテンポを変えてもピッチ(音の高さ)は変化しません。

### 音色を変えるには

録音したときの音色と違う音色で演奏を再生することができます。そのパートで再生したい音色を[音色セクター]を押して選びます。ただし、録音中に[音色セクター]を押して音色を切り替えた場合は、その位置で自動的に録音中に選んだ音色に切り替わります。

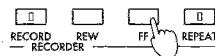


レイヤーを選んだときの注意

- レイヤーにすると、次の番号のパート(パート1をレイヤーにしたときはパート2)の演奏データは再生されなくなり、そのパートを選ぶことができなくなります。レイヤーを解除すると再生およびパートを選ぶようになります。
- パート16(メトロノームにベル音を選んでいる場合はパート15)を選んでいるときにはレイヤーにできません。
- レイヤーにした2つのパートは、同じMIDIチャンネルになります。そのためMIDIプログラムチェンジを受信すると両方のパートが同じ音色になります。

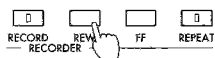
### 演奏する小節を移動するには

[FF]スイッチを押すとLED画面に現在の小節が表示されます。小節表示後、[FF]スイッチを押すたびに、1小節単位で次の小節に進みます。押し続けると連続して小節が進みます。再生中に押すと移動中は音が出ません。



[REW]スイッチを押すとLED画面に現在の小節が表示されます。

小節表示後、[REW]スイッチを押すたびに、1小節単位で前の小節に戻ります。押し続けると連続して小節に戻ります。再生中に押すと移動中は音が出ません。

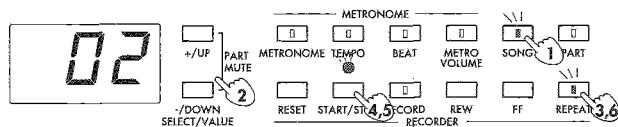


### 演奏を繰り返し聴くには

録音した曲全体や曲のある区間内を繰り返し再生します。そのため一曲を続けて何回も聴きたいときや、演奏のむずかしい部分を繰り返し練習するときなどに便利です。

#### 1曲全体のリピート

- [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、リピート再生するソング番号を選びます。
- [REPEAT]スイッチを押します。  
[REPEAT]スイッチのランプが点灯します。
- [START/STOP]スイッチを押すと、1曲全体を繰り返し再生します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。



- [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。
- リピート演奏を解除するには、演奏が停止しているときに[REPEAT]スイッチを押します。  
[REPEAT]スイッチのランプが消灯します。



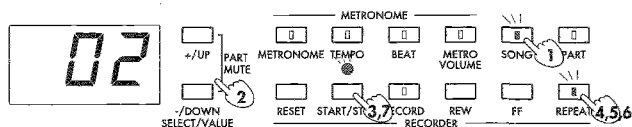
再生中には[REPEAT]スイッチをオフにすることができません。



## 3. アンサンブルを楽しむには

## A-B区間のリピート

- [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、リピート再生するソング番号を選びます。
- [START/STOP]スイッチを押して、演奏を再生します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。
- リピートを開始したいところで、[REPEAT]スイッチを押します。  
[REPEAT]スイッチのランプが点滅します。  
“開始小節”が設定されました。
- さらに再生を続けて、リピートを終了したいところで [REPEAT]スイッチを押します。  
[REPEAT]スイッチのランプが点灯します。  
“終了小節”が設定され、区間内を繰り返し再生し始めます。



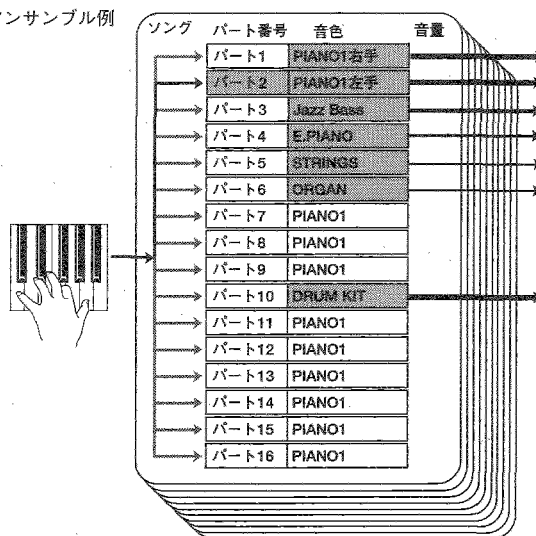
- リピート区間の設定を解除するには、もう一度 [REPEAT]スイッチを押します。  
再生中に [REPEAT]スイッチを繰り返し押すと“開始小節”→“終了小節”→“設定解除”→“開始小節”と いうように順に設定されていきます。
- [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。

**!** リピート区間の“開始点”と“終了点”はメトロノームで設定している小節単位で行われます。そのため、聴きながら設定した位置より実際の開始点は前に、終了点は後ろになる場合があります。

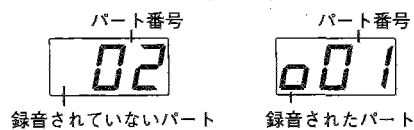
A-B区間のリピート中は、[REW]スイッチ、[FF]スイッチで小節を移動することができません。

すでに録音したパートを再生しながら、新たに別のパートに演奏を録音することができます。  
右手と左手の演奏を片手ずつ別々のパートに録音したり、ベースやドラムスなどの演奏を各パートに録音して、多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

アンサンブル例



- [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01～10)が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、アンサンブルを録音するソングを選びます。
- [PART]スイッチを押します。  
[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01～16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音されていないパートを選びます。



- 「1.演奏を録音します」(18ページ)の操作“5”からを参照して、すでに録音を済ませた演奏を聴きながら追加するパートを録音してください。

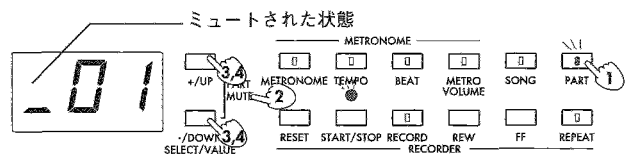
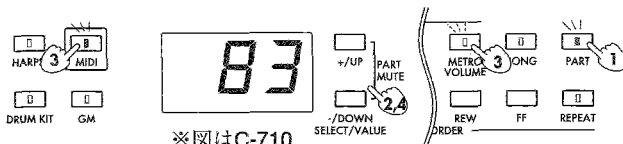
**!** 現在選んでいるパートに割り当てている音色の[SURROUND]、[EFFECT]の効果がすべてのパートにかかります。

演奏を録音・再生し  
てみましょう

## パートごとの音量を調節するには

複数のパートのそれぞれの音量を調節して、演奏のバランスを整えます。鍵盤で弾くときの音量はそのとき選んでいるパートの音量になります。

- [PART]スイッチを押します。  
[PART]スイッチのランプが点灯します。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音量を調節するパートを選びます。
- [MIDI]スイッチを押しながら、[METRO VOLUME]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[METRO VOLUME]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面には現在のパートの音量が0(最小)～127(最大)で表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音量を調節します。



- もう一度、[+/UP]スイッチと[-/DOWN]スイッチを同時に押すと、ミュートが解除されます。  
LED画面の表示と音量がミュート前の状態に戻ります。

▲ パートをミュートするとミュートされたパートの元の音量とは関係なく、鍵盤を弾いたときの音量は最大になります。

## GMスコアをつくるには(C-710)

C-710で作った演奏データをスタンダードMIDIファイル(SMF)に変換する(30ページ参照)などして、他のGM音源で演奏を聴くときには、ドラムパートにパート10(MIDIチャンネル10)を選び、[DRUM KIT]の“01”(GM Kit)を使用します。

他の1～9、11～16のパートには[GM]の中の音色を選んでください。このように設定することによって、他のGM音源でも同様の音色で再生することができます。

## マイナスイオン演奏をするには

すでに録音をしてあるパートの演奏をミュート(音を一時的に消す)して、演奏やボーカルを加えることができます。これをマイナスイオン演奏といいます。この操作は一時的に音を消すためのもので「パートを消去します(24ページ参照)」のように永久的にデータを失うものではありません。

「パートごとの音量を調節するには」の操作で音量を“0”にすることができますが、この場合は鍵盤を弾いたときの音量も“0”になって音が鳴らなくなります。

- [PART]スイッチを押します。  
[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01～16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態(18ページ右上参照)が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、ミュートしたいパートを選びます。
- [+/UP]スイッチと[-/DOWN]スイッチを同時に押し、パートをミュートします。  
LED画面の表示が図のように変わり、演奏データを再生するとこのパートは再生されません。

## 4. 録音した演奏データのタイミングを整えます

演奏するタイミングを自動的に補正させながら録音することができます。

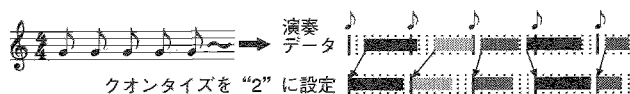
これを(リアルタイム)クオンタイズ機能といいます。

たとえば、メトロノームに合わせて演奏を譜面のように録音したとします。

タイミングがずれてしまった場合に、この機能を使うと自動的に正確なタイミングに補正してくれます。

音符は補正するタイミングの精度に対して近いほうへずれ、補正されます。

下の例ではすべて8分音符ですのでクオンタイズを次の操作手順に沿って“2”=♪に設定します。



1. 「1. 演奏を録音します」(18ページ)の操作“5”までを行います。

2. C-710では[MIDI]スイッチを押しながら、[GM]スイッチを押します。

C-560では[MIDI]スイッチを押しながら、[BASS]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、C-710では[GM]スイッチ、C-560では[BASS]スイッチのランプが点滅します。

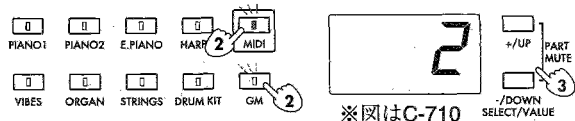
LED画面にクオンタイズの精度が表示されます。

3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、補正するタイミングの精度を選びます。

“96”にすると、補正を行わないで演奏したとおりに録音されます。

“12”～“1”に設定すると、その音符単位でタイミングを補正します。

“12”=♪<sub>3</sub>、“8”=♪<sub>4</sub>、“6”=♪<sub>3</sub>、“4”=♪<sub>4</sub>、“3”=♪<sub>3</sub>、“2”=♪<sub>4</sub>、“1”=♪<sub>4</sub>です。



※図はC-710

例：“12”では32分音符の3連符単位でタイミングを補正し、“1”では4分音符単位でタイミングを補正します。

**▲** 補正するタイミングの精度によって演奏が著しく変わる場合があります。適切なタイミングの精度を選んでください。

4. 「1. 演奏を録音します」の操作“5”以降を行い、録音をはじめてください。

**▲** クオンタイズのタイミングはメトロノームの拍子とテンポに従います。[METRONOME]スイッチを押して、メトロノームをオンにしてから録音を始めてください。

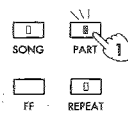
## 5. 2つのパートの演奏データを1つのパートにまとめます

2つのパートに別々に録音した演奏データを一方のパートにまとめることができます。

これをバウンス機能といいます。データを一方のパートにまとめると、もう一方のトラックは自動的に空になり、新たにそのパートに録音することができます。

1. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01～16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態(18ページ参照)が表示されます。



2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、2つのパートのうち、データをまとめるほうのパート(バウンス先)を選びます。

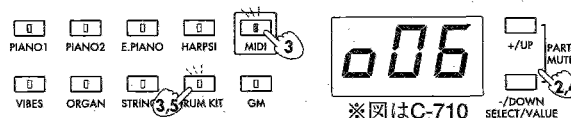
3. [MIDI]スイッチを押しながら、[DRUM KIT]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[DRUM KIT]スイッチのランプが点滅します。

4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、データをまとめるもう一方のパート(バウンス元)を選びます。

5. [DRUM KIT]スイッチを押すと、バウンス元のパートのデータが操作“2”で選んだパートに重ねられ、操作“4”で選んだパートは空になります。

音色はバウンス先の音色になります。たとえば、ピアノ(バウンス先)とストリングス(バウンス元)とした場合、ピアノのパートに両方のデータがまとめられ、ピアノの音になります。



※図はC-710

演奏を録音・再生してみよう♪

## 6. ソング/パートを消去します

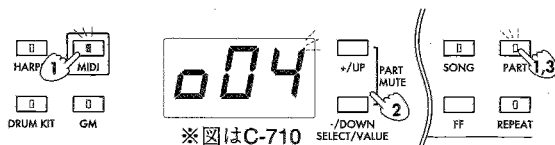
### ソングを消去するには

- [MIDI]スイッチを押しながら、[SONG]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[SONG]スイッチのランプとLED画面のソング番号が点滅します。
- [+/UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、消したいソング番号を選びます。
- [SONG]スイッチを押すと、選んだソングデータが消去されます。  
[MIDI]スイッチのランプが消灯し、LED画面のソング番号が点灯します。  
ソングデータを消したくない場合は[MIDI]スイッチ(または [RESET]スイッチ)を押してください。



### パートを消去するには

- [MIDI]スイッチを押しながら、[PART]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PART]スイッチのランプとLED画面のパート番号が点滅します。
- [+/UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、消したいパート番号を選びます。
- [PART]スイッチを押すと、パートのデータが消去されます。  
[MIDI]スイッチのランプが消灯し、LED画面のパート番号が点灯します。  
パートのデータを消したくない場合は[MIDI]スイッチ(または [RESET]スイッチ)を押してください。



## 7. いくつかの録音方法

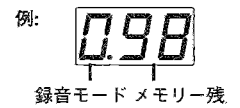
### 録音モードの設定

本機のレコーダーでは次の録音方法を選ぶことができます。

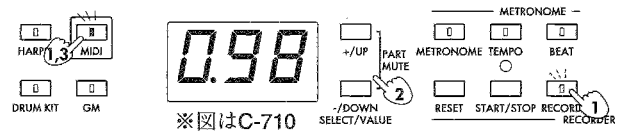
LED 録音モード	説明
0 上書き	録音時に前に録音したデータは消され、新しく録音したデータだけが残ります。
1 重ね書き	前に録音したデータと新しく録音したデータを重ね合わせます。
2 自動パンチイン/アウト	録音を始める前に録音する小節を設定し、その小節区間だけを録音します。
3 手動パンチイン/アウト	録音時にソステヌートペダルを踏んである区間内を録音します。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[RECORD]スイッチのランプが点滅します。

LED画面には録音モードとメモリー残量が表示されます。  
メモリー残量については26ページをご覧ください。



- [+/UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、録音モード(0~3)を選びます。



- [MIDI]スイッチ(または [RESET]スイッチ)を押して、設定モードから抜けます。

電源オン時は“上書き”に設定されます。

### 上書き

すでに録音してある演奏データに、新しい演奏データが上書きされます。  
新しく録音を開始した小節以降の演奏データがすべて書き換えられます。  
録音を終了した小節以降にも演奏データがあった場合には、それらのデータも消去されます。  
通常はこの方法で録音します。

- 録音モードを“0”に設定し(上記操作参照)、録音を行ってください。

## 重ね書き

すでに録音してある演奏データに、新しい演奏データが書き加わります。

録音を開始した小節以降に録音されている演奏データは消去されずに、新しい演奏データと重なっていきます。

- 録音モードを“1”に設定し(前項操作参照)、録音を行ってください。

[RECORD]スイッチを押して録音待機にしているとき(18ページ操作“7”参照)、LED画面に“録音モードとメモリ残量”が点滅表示され、現在の録音モードが確認できます(このとき録音モードは変更できません)。

[START/STOP]スイッチまたは鍵盤を押すと、重ね書き録音が始まります。

## 自動パンチイン/アウト

指定小節間を録音します。

ある区間内を修正するときなどに便利です。

最初に録音する小節を設定します。その後、通常どおり録音を開始すると指定区間内だけを録音することができます。

1. 録音モードを“2”に設定します(24ページ参照)。
2. [MIDI]スイッチを押しながら[REW]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、LED画面に小節番号が点滅します。
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音開始(パンチイン)小節を設定します。  
録音時、この小節の頭から録音が始まります。
4. [MIDI]スイッチを押しながら[FF]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、LED画面に小節番号が点滅します。
5. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して録音終了(パンチアウト)小節を設定します。  
録音時、この小節の終りまでが録音されます。



6. [MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押して、設定画面から抜けます。

7. 通常どおり録音を始めます。

[RECORD]スイッチを押して録音待機にしているとき(18ページ操作“7”参照)、LED画面に“録音モードとメモリ残量”が点滅表示され、現在の録音モードが確認できます(このとき録音モードは変更できません)。

[START/STOP]スイッチまたは鍵盤を押すと、自動パンチイン/アウト録音が始まります。

録音開始(パンチイン)小節より前の小節から必ず録音を始めてください。

録音を開始すると録音開始小節まで再生され、録音開始小節から(上書き)録音が始まります。

録音終了小節までくると録音が終了し、それ以降の小節から再生に切り替わります。



ここでの“小節”はメトロノームで設定されている拍子とテンポに従います。

そのためメトロノームの拍子、テンポに関係なく演奏を録音している場合は、実際の演奏の拍子、テンポとは一致しません。

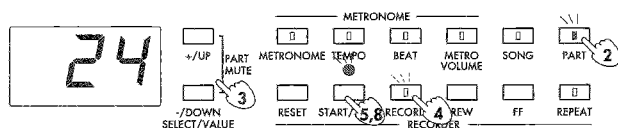
演奏を録音、再生し  
てみましょう

## 手動パンチイン/アウト

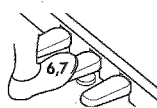
指定区間内を録音します。ある区間内を修正するときなどに便利です。

録音時にソステヌートペダルを踏むことで録音する小節を設定します。

- 録音モードを“3”に設定します(24ページ参照)。
- [PART]スイッチを押します。  
[PART]スイッチのランプが点灯します。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]を押して録音したいパートを選びます。
- [RECORD]スイッチを押します。  
[RECORD]スイッチのランプが点滅し、録音待機の状態になります。
- [START/STOP]スイッチを押して演奏を再生します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅し、再生が始まります。  
この状態では[RECORD]スイッチのランプが点滅したままで、演奏は録音されていません。



- 録音したいところでソステヌートペダルを踏みます。  
[RECORD]スイッチのランプが点灯に変わり、(上書き)録音が始まります。
- 録音を終了したいところでもう一度ソステヌートペダルを踏みます。  
[RECORD]スイッチのランプが点滅に変わり、録音が終了し、再生に切り替わります。
- [START/STOP]スイッチを押して演奏を停止します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯します。

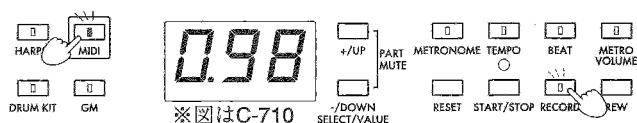


**2** この録音モードでは、ソステヌートペダルがパンチイン/アウトのタイミングを設定するスイッチになるため、ソステヌートペダル機能が使用できなくなります。

## 録音可能なメモリーの残量表示

本体のレコーダーの録音できる容量をパーセント表示します。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[RECORD]スイッチのランプが点滅します。LED画面に現在のレコーダーのメモリー残量が“00”～“99”の範囲で表示されます。



**2** メモリー残量が少なくなると録音が行えなくなります。メモリー残量が少なくなったら、外部のMIDIデータファイラー等(35ページ参照)や内蔵のディスクドライブ(C-710のみ)にデータを保存してから、本体内のソングやパートを消去してください(24ページ参照)。

## 1. ディスクのフォーマット (初期化)

新しいフロッピーディスクをC-710用に使うには、ディスクをフォーマット(初期化)する必要があります。また古いディスクに入った必要のないデータを消して、もう1度フォーマットし直すこともできます。

MS-DOSコンピューターでもフォーマットすることができます。

デモディスクはフォーマットする必要はありません。フォーマットを実行すると、フロッピーディスクのデータはすべて消えてしまいます。フォーマットしてもよいかどうかを必ず確認してから実行してください。

1. ディスクドライブにフォーマットするフロッピーディスクを挿入します。

2. [MIDI]スイッチを押しながら、[DEMO]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[DEMO]スイッチのランプが点滅します。

フロッピーディスクをチェック後、LED画面に次のいずれかが表示されます。

その他のメッセージが表示されるときは、52ページをご覧ください。

**- F -**

フォーマットされていないディスク。

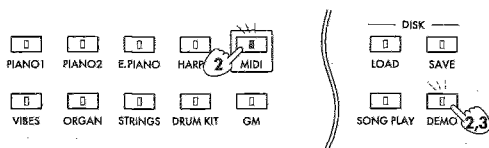
**DDF**

フォーマットされたディスク。フロッピーディスクにソングファイルがない。

**0 IF**

フォーマットされたディスク。フロッピーディスクにソングファイルがある。(左2桁はファイル番号)

[DEMO]スイッチがオン(ランプが点灯)になっているところでの操作は行えません。オフにしてください。



3. [DEMO]スイッチを押すと、フォーマットが始まります。LED画面に“**DF**”が点滅表示されます。

フォーマットが終了するまで、2DD、2HDどちらのフロッピーディスクでも約2分かかります。

フォーマットが終了すると、[MIDI]スイッチのランプと[DEMO]スイッチのランプが消灯し、LED画面はフォーマット前の表示に戻ります。

フォーマットをやめるときは、ランプが点灯している[MIDI]スイッチを押します。

LED画面の右端の“.”とディスクドライブのLEDが点灯中はディスクドライブが実行中です。実行中は、決してフロッピーディスクを取り出さないでください。

## 2. 演奏データをフロッピーディスクに保存します(セーブ)

本体レコーダーの演奏データをフロッピーディスクに保存(セーブ)します。

レコーダーの10ソングを1ファイルとして保存します。

C-710は電源をオフにするとレコーダーに録音した演奏データはすべて消えてしまいます。そのため大切なデータは必ず電源をオフにする前にフロッピーディスク(またはデータファイラー)に保存してください。

この他、レコーダーの演奏データをSMFのソングファイル(\*.MID)に変換して保存することができます(30ページ参照)。

1. ディスクドライブに(フォーマット済みの)フロッピーディスクを挿入します。

2. [SAVE]スイッチを押します。  
[SAVE]スイッチのランプが点滅し、ディスクを認識後、LED画面にファイル番号(“F01”~“F99”)が表示されます。

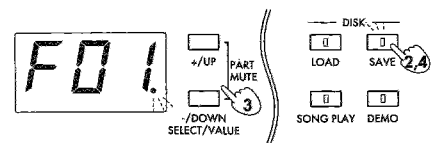
[SONG PLAY]スイッチがオン(ランプが点灯)になっているところでの操作は行えません。オフにしてください。

3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、保存するファイル番号を選びます。

保存しようとしているファイルと同じ番号のファイルがディスク上にあると、LED画面のファイル番号が点滅して、ファイルが新しいファイルに置き替わってもよいか、というメッセージを出します。すでにあるファイルに取っておきたいデータが入っていないことを確認してから、先に進んでください。このセーブ操作によって元のファイルは消えてしまいます。

上書き(前のファイルを消して新しいファイルを同一の番号で保存)するとき以外は、点滅していないファイル番号を選んでください。保存をやめるときは、[MIDI]スイッチを押します。

4. [SAVE]スイッチを押すと、保存が実行されます。LED画面の右端の“.”が点滅し、ディスクドライブのLEDが点灯します。保存が終了すると[SAVE]スイッチのランプとLED画面の右端の“.”、ディスクドライブのLEDが消灯します。



C-710のさまざまな機能

### 3. フロッピーディスクから演奏データを読み込みます(ロード)

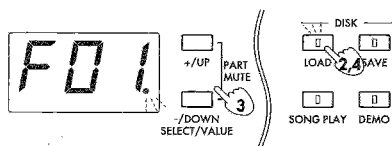
フロッピーディスクからレコーダーの演奏データを本体のレコーダーに読み込み(ロード)ます。

この他、SMFのソングファイル(\*.MID)をレコーダー用のソングファイル(KORGPFF\*.SNG)に変換してレコーダーに読み込むことができます(30ページ参照)。



データを読み込むと本体内のレコーダーの演奏データがすべて(10ソング)消えてしまいます。  
演奏データを読み込む前に、本体内の大切な演奏データは、必ずディスクに保存しておいてください。

1. ディスクドライブにフロッピーディスクを挿入します。
  2. [LOAD]スイッチを押します。  
[LOAD]スイッチのランプが点滅し、ディスクを認識後、LED画面にファイル番号("F01"~"F99")が表示されます。
  3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、読み込みたいソングファイルを選びます。
  4. [LOAD]スイッチを押すと、読み込みが実行されます。  
LED画面の右端の"."が点滅し、ディスクドライブのLEDが点灯します。  
読み込みが終了すると[LOAD]スイッチのランプとLED画面の右端の"."、ディスクドライブのLEDが消灯します。
- 読み込みを中止するときは、[MIDI]スイッチを押します。



### 4. スタンダードMIDIファイルを再生します(ソングプレイ)

シーケンサー(レコーダー)の演奏データのフォーマットを規定し、メーカーや機種が異なってもフロッピーディスクを介してデータのやり取りを可能にしたのがスタンダードMIDIファイル(SMF)です。

1曲(1ソング)が1ファイルになります。C-710では、1つのトラック(パート)にすべての演奏情報が入っている"フォーマット0"と、演奏情報をMIDIチャンネルごとにトラック(パート)に振り分けた"フォーマット1"に対応しています。

スタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルをフロッピーディスクから直接ロードして再生することをソングプレイといいます。

SMFのソングファイルを何曲か連続して再生したいときや、素早く再生したいときにこのモードが便利です。

1. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、C-710のディスクドライブに挿入します。
2. [SONG PLAY]スイッチを押します。  
[SONG PLAY]スイッチのランプが点灯し、ディスクを認識後、LED画面にはフロッピーディスクに収録されているソングファイル("F01"~"F99")が表示されます。
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、再生したいソングファイルを選びます。
4. [START/STOP]スイッチを押します。

再生させるソングファイルがフォーマット0の場合

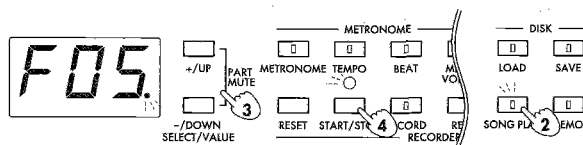
- ・ [START/STOP]スイッチ上のランプとLED画面の右端の"."が点滅し、ディスクドライブのLEDが点灯して、再生が始まります。  
選んだファイル番号から最後のファイル番号の曲まで順番に再生します。

再生させるソングデータがフォーマット1の場合



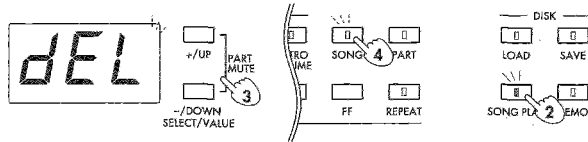
フォーマット1のソングデータをソングプレイで再生すると、本体レコーダーに入っているすべてのデータが消えてしまいます。  
消したくない場合は[SONG PLAY]スイッチを押してランプを消灯します。そしてフロッピーディスクに演奏データを保存してから順に再び操作しなおしてください。

- ・ 本体レコーダーに演奏データが入っていないときは、[START/STOP]スイッチ上のランプが素早く点滅した後、テンポに合わせた点滅に変わり、再生が始まります。  
選んだファイル番号から最後のファイル番号の曲まで順番に再生します。





- 本体レコーダーに演奏データが入っているときは、[SONG]スイッチのランプが点滅し、LED画面にこれらのソングデータを消してもいいかというメッセージ“dEL”(delete)が点滅表示します。



[SONG]スイッチを押すと、[SONG]スイッチのランプが点灯に変わり、LED画面の右端の“.”と[START/STOP]スイッチ上のランプが数秒点滅した後、テンポに合った点滅に変わり再生が始まります。選んだファイル番号から最後のファイル番号の曲まで順番に再生します。

- 演奏を止めたいときは、[START/STOP]スイッチを押します。  
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。
- 演奏を聴き終えたら、[SONG PLAY]スイッチを押します。  
[SONG PLAY]スイッチのランプが消灯します。

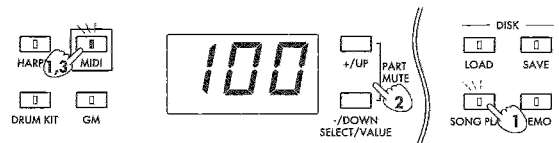
ソングプレイモードのときにもパートの音色や、音量を変えたり(21, 22ページ参照)、ミュートする(マイナスイオン演奏、22ページ参照)ことができます。

右側底面のマイク端子にマイクを接続して、市販のSMF/GMデータのメロディーパートをミュートすればカラオケを楽しむことができます(31ページ参照)。

- 音色などが正しく再生されない場合は、「プログラムフィルターの設定」(34ページ参照)や、音律に“平均律”が選ばれているか(16ページ参照)を確認してください。そして[RESET]スイッチを押した後、もう一度再生してみてください。
- ソングプレイではサウンドを“3D SOUND”または“PRESET”のいずれかに設定できます。エフェクトは自動的に適した設定になり変更できません。またレイヤーは選べません。
- LED画面に表示される番号は、SMFがディスクに書き込まれた順です。ディスクのラベルに書かれている曲の順番と、異なる場合があります。

- マイナスイオン演奏(22ページ参照)をしているときに、ボーカルや、鍵盤を弾いたときの音量をそのまま、ミュートしていない他のパートの音量をまとめて調節することができます。

- [MIDI]スイッチを押しながら[SONG PLAY]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[SONG PLAY]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面に音量が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチで音量を調節します。  
[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。  
また、[SONG PLAY]スイッチを押しながら[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。




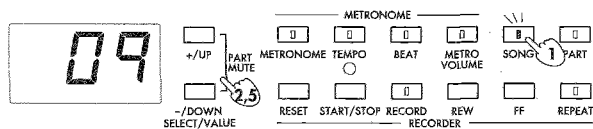
- 音量の調節が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。  
[MIDI]スイッチのランプが消灯します。

## 5. スタンダードMIDIファイルを 読み込みます

SMFフォーマットのソングファイルをレコーダーの演奏データに変換して、本体レコーダーに読み込みます。本体のレコーダーでソングファイルを編集するときなどに便利です。

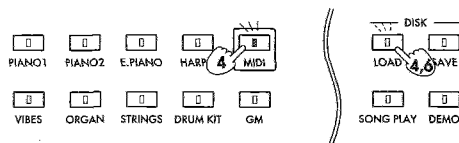
1. [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、画面にソング番号が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、読み込み先のレコーダーのソング番号を選びます。

 フロッピーディスクに収録されているSMFのソングファイルが、選んだレコーダーのソングに読み込まれ、レコーダーの演奏データは消えてしまいます。  
指定したソング番号のみに読み込まれ、他のソングの演奏データは消えません。  
読み込み先のソングに取っておきたいデータがあるときは、事前にフロッピーディスクに保存しておいてください。



3. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、C-710のディスクドライブに挿入します。

4. [MIDI]スイッチを押しながら、[LOAD]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[LOAD]スイッチのランプが点滅します。  
ディスクを認識後、LED画面にファイル番号が表示されます。



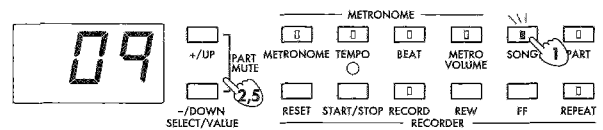
5. [+UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、本体レコーダーに読み込むSMFのソングファイルを選びます。
6. [LOAD]スイッチを押すと、読み込みが実行されます。  
LED画面の右端の"."が点滅し、ディスクドライブのLEDが点灯します。  
本体レコーダーにデータを変換しながらソングファイルを読み込みます。  
読み込みが終了すると[LOAD]スイッチのランプとLED画面の右端の"."、ディスクドライブのLEDが消灯します。

読み込みを中止するときは、[MIDI]スイッチを押します。

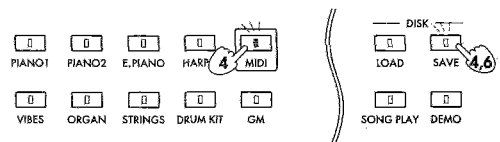
## 6. 演奏データをSMFにしてフ ロッピーディスクに保存します

本体レコーダーで作った演奏データをSMFに変換して、フロッピーディスクに保存します。  
SMFに対応した他の機器などで再生、編集するときなどに便利です。


1. [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチのランプが点灯し、画面にソング番号が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、SMFとして保存するレコーダーのソング番号を選びます。



3. フロッピーディスクを、C-710のディスクドライブに挿入します。
4. [MIDI]スイッチを押しながら、[SAVE]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[SAVE]スイッチのランプが点滅します。ディスク認識後、LED画面にはファイル番号が表示されます。



5. [+UP]スイッチまたは [-/DOWN]スイッチを押して、保存するファイルを選びます。  
レコーダーの1ソングを1ソングファイルとして保存します。

 保存しようとしているファイルと同じ番号のファイルがディスク上にあると、LED画面のファイル番号が点滅して、ファイルが新しいファイルに置き替わってもよいか、というメッセージを出します。  
すでにあるファイルに取っておきたいデータが入っていないことを確認してから、先に進んでください。このセーブ操作によって、元のファイルは消えてしまいます。上書き(前のファイルを消して新しいファイルを同一の番号で保存)するとき以外は、点滅していないファイル番号を選んでください。なお、ここで選んだファイル番号は、ソングプレイで再生するときや、SMFのデータをレコーダー用のソングファイルに変換するときのファイル番号と異なります。

6. [SAVE]スイッチを押すと、保存を実行します。  
LED画面の右端の"."が点滅し、ディスクドライブのLEDが点灯します。  
フロッピーディスクに本体レコーダーのデータをSMFに変換しながら保存します。  
保存が終了すると[SAVE]スイッチのランプとLED画面の右端の"."、ディスクドライブのLEDが消灯します。

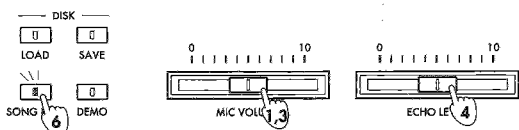
保存を中止するときは、[MIDI]スイッチを押します。

## 7. マイクを接続して歌ってみましょう

C-710にマイクを接続すればカラオケも楽しむことができます。

市販のSMF/GMデータを使って歌ってみてください。

1. 本体右側にある[MIC VOLUME]スライダーを“0”に下げます。
2. マイクを本体右側底面にあるマイク端子に接続します。  
マイクにオン/オフ・スイッチがある場合はオンにします。
3. マイクの音量を[MIC VOLUME]スライダーで調節します。
4. エコーのかけ具合を[ECHO VOLUME]スライダーで調節します。
5. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、C-710のディスクドライブに挿入します。
6. [SONG PLAY]スイッチを押します。  
[SONG PLAY]スイッチのランプと[SONG]スイッチのランプが点灯します。  
ディスクを認識後、LED画面にはフロッピーディスクに収録されているソングファイル(“F01”~“F99”)が表示されます。
7. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、



曲(ソングファイル)番号を選びます。



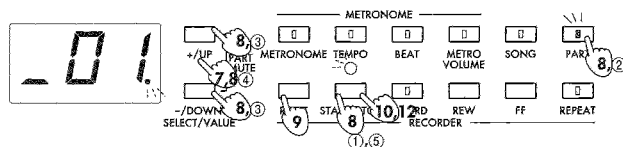
市販されているSMF/GMデータの多くも同様にフォーマット0で保存されています。  
そのためここではフォーマット0のソングファイルを再生する場合について説明します。  
フォーマット1のソングファイルを再生する場合は28ページをご覧ください。

8. 歌(メロディ)のパートをミュート(消音)します。  
歌のパートが見つからないときは、次のようにして確認してください。
- ① [START/STOP]スイッチを押して演奏を再生します。
  - ② [PART]スイッチを押します。
  - ③ [+UP]スイッチと[-/DOWN]スイッチを同時に押して、パートをミュートします(22ページ参照)。

歌のパートが消えましたか?

消えない場合はもう一度 [+UP]スイッチと [-/DOWN]スイッチを同時に押してミュートを解除してください。

- ④ 次のパートを [+UP]スイッチを押して選び、ミュートして確認してみてください。  
このように次々にパートを確認して歌のパートをミュートします。
- ⑤ [START/STOP]スイッチを押して演奏を止めてください。



9. [RESET]スイッチを押して最初の小節に戻します。
10. [START/STOP]スイッチを押して、演奏に合わせて歌ってください。  
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。
11. 音程が合わないときは、[KEY TRANSPOSE]スライダーを動かして、キーを調節してください。  
“C”を基準にスライダーを左に1目盛りずつ動かすとキーが半音ずつ下がり、右に動かすと半音ずつ上がります。  
通常は“C”にしておきます。
12. 演奏が終わったら[START/STOP]スイッチを押します。



本機能をご使用にならないときは、[MIC VOLUME]スライダーと[ECHO LEVEL]スライダーを“0”に下げて、マイクをマイク端子から抜いておいてください。

マイク端子に接続したマイクの音量を調節できるのは[MIC VOLUME]スライダーだけです。[MASTER VOLUME]スライダーではマイク端子の音量を調節できません。

マイク端子はモノラル端子です。シンセサイザーなどのステレオ出力の機器をつなげて、本体スピーカーから音を出したいときは、本体後面にある[INPUT]端子に接続してください。

次の条件でご使用になりますとハウリングを起こす場合がありますので、最適な状態に調整してご使用ください。

- ・マイクの指向特性。
- ・マイクの向きが本体に向いている。
- ・マイクと本体の距離が近すぎる。
- ・マイクボリュームとエコーレベルの調整具合。

# 他の機器との接続

## 1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続

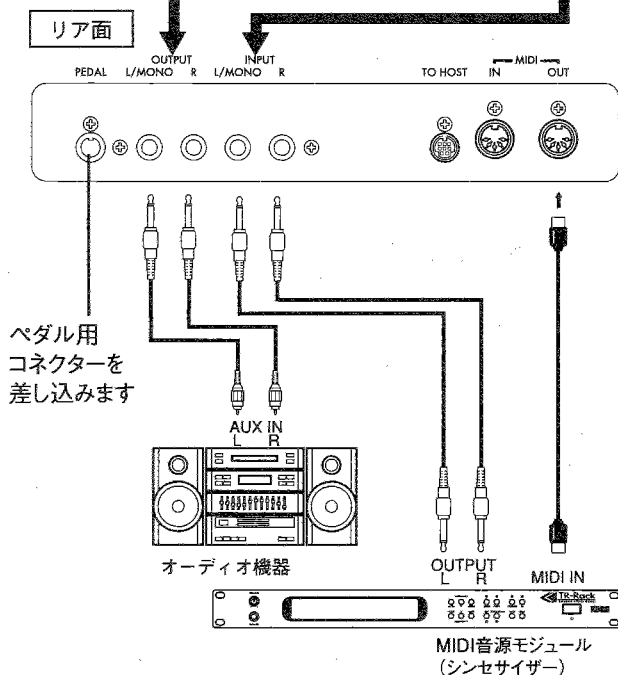
C-710/C-560にシンセサイザーやオーディオ機器を接続して、本体のスピーカーから音を出したり、演奏をテープレコーダーなどに録音することができます。

### [INPUT]端子 (L/MONO, R)

シンセサイザーやオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本体のスピーカーから音を出すための入力端子です。モノラルで接続するときは“L/MONO”に接続します。音量は接続した機器のボリュームで調節してください。

### [OUTPUT]端子 (L/MONO, R)

オーディオ機器のインプット端子と接続して、より大きい音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するための出力端子です。モノラルで接続するときは“L/MONO”に接続します。音量は本体の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。C-710では底面のマイク端子(31ページ参照)に接続したマイクの音も同時に出力されます。



## 2. MIDI機器との接続

### MIDIとは?

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)は、楽器の演奏情報(鍵盤の演奏や、音色の選択など)をデジタル信号に変換して、電子楽器やコンピュータの間でやりとりするための統一規格です。

C-710/C-560を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。

このとき、音色の切り替えや、ダンパーペダルなどのさまざまな効果をいっしょにコントロールすることもできます。同様に他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)からC-710/C-560をコントロールすることもできます。

ここでは、C-710/C-560に関連したMIDIの使用方法について説明します。

MIDIについて興味のある方のために解りやすく説明した本も数多く出版されていますのでご利用ください。

### MIDI端子の接続

MIDI情報をやり取りするには、専用のMIDIケーブルを使います。

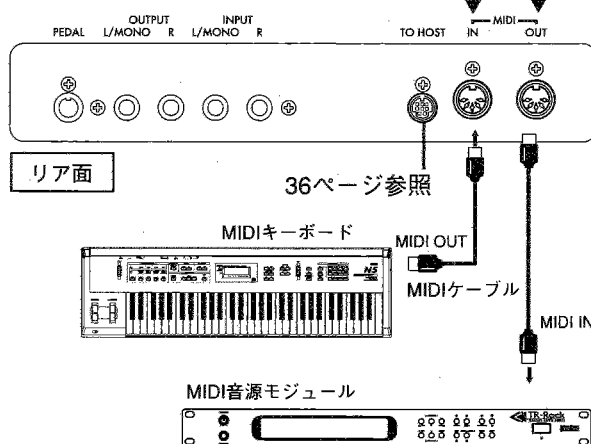
このケーブルをC-710/C-560のMIDI端子と、情報をやり取りする外部MIDI機器のMIDI端子と接続します。

### [MIDI OUT]端子

MIDI情報を送信します。本体の鍵盤を弾いたり、レコーダーを再生したときに出力されるMIDI情報で外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体の[MIDI OUT]端子と外部MIDI機器の[MIDI IN]端子をMIDIケーブルで接続します。

### [MIDI IN]端子

MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本体の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体の[MIDI IN]端子と外部MIDI機器の[MIDI OUT]端子でMIDIケーブルを接続します。

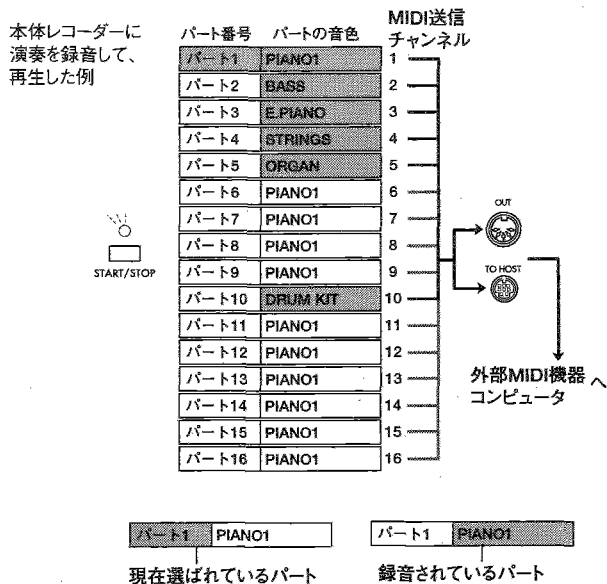
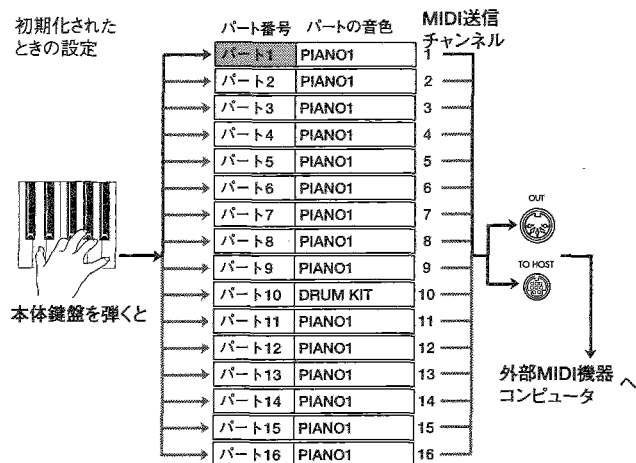


## MIDIチャンネルの設定

MIDI機器との接続が終わったら、C-710/C-560と接続するMIDI機器とのMIDIチャンネルを合わせます。

MIDIチャンネルには1~16のチャンネルがあります。本体鍵盤を弾くと、現在選んでいるソングのパートに設定されているMIDIチャンネルで、鍵盤の情報を送信します。

レコーダーの演奏データは、録音したソングのパートに設定されているMIDIチャンネルで送信します。

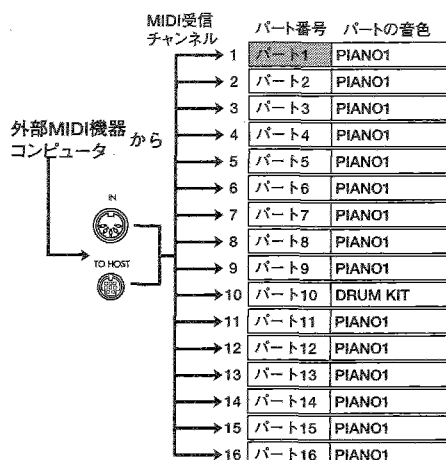


また、外部MIDI機器からのMIDI情報は現在選んでいるソングのパートにそれぞれ設定されているMIDIチャンネルで受信します。

MIDIチャンネルを各パートに振り分ければ、外部シーケンサーからの情報を受信して、C-710/C-560を最大16の異なる音色で鳴らすことができます。

これをマルチティンバー機能といいます。

**最大同時発音数は32音です。**  
ただし音色やレイヤーにするなどの条件により発音数が少なくなることがあります。



## MIDIチャンネルの変更

本体鍵盤を弾いたときに送信するMIDIチャンネルを変えるには、パート番号を変えるのが一番早い方法です。しかしパートのMIDIチャンネルを変更したい場合があります。そのようなときには次のように変更します。

1. MIDIチャンネルを変更するソングのパートを選びます。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[BEAT]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[BEAT]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面は現在選ばれているパートのMIDIチャンネルが表示されます。
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、MIDIチャンネルを変更します。

**初期設定のときにパートのMIDIチャンネルを変更すると、2つのパートが同一のチャンネルになってしまいます。**  
この状態では、そのチャンネルでデータを受信したときに 2つのパートに設定されているそれぞれの音色が同時に鳴ります。  
音色がおかしいときはもう一方のパートのMIDIチャンネルを変更したパートのMIDIチャンネルと入れ替えてください。

4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチのランプと[BEAT]スイッチのランプが消灯します。

C-710では電源を入れた直後は、自動的に初期設定(パート1がMIDIチャンネル1~パート16がMIDIチャンネル16)になります。

C-560では電源オフ直前のソング1の録音、または再生した時の設定が記憶されています。

## グローバルMIDIチャンネルの変更

システム・エクスクルーシブ・メッセージを送受信するときは、グローバルのチャンネルで行います。

C-710/C-560ではデータダンプ(35ページ参照)を行うときにグローバルMIDIチャンネルで送受信します。グローバルMIDIチャンネルは次のように設定します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[VIBES]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[VIBES]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面にグローバルMIDIチャンネルが表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、グローバルMIDIチャンネルを設定します。
3. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。  
[MIDI]スイッチのランプと[VIBES]スイッチのランプが消灯します。

## ローカルオン/オフの設定

C-710/C-560の鍵盤を弾いたときに本体の音は鳴らさないうでMIDI(またはTO HOST)で接続している外部の音源だけを鳴らすときにローカルオフに設定します。また、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときも、戻ってきた情報で2重に鳴るのを防ぐために、ローカルオフに設定します。

通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いて音が鳴るようにします。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[PIANO1]スイッチを押します。

押すたびに設定が切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PIANO1]スイッチのランプが点灯、または消灯します。

設定	[PIANO1]	説明
ローカルオン	消灯	鍵盤を弾くと本体の音が鳴ります
ローカルオフ	点灯	鍵盤を弾いても本体の音が鳴らず、MIDI情報を出力するだけになります

☞ 電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

## プログラムフィルターの設定

外部MIDI機器(シーケンサー等)でC-710/C-560の音色を鳴らしたとき(特にC-710でGMに似た演奏データを鳴らした場合やC-710のソングプレイでGMに類似した演奏データを再生したとき)に、異なる音色で再生されてしまうことがあります。また、[音色セクター]を押すとMIDI OUT(またはTO HOST)端子からプログラムチェンジとバンクセレクトを送信します。

受信する外部MIDI機器によっては正しくプログラムが切り替わらないことがあります。このようなときに、ここで設定を変えることによってそれらの問題を回避します。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[EFFECT]スイッチを押します。

[EFFECT]スイッチを押すたびに設定が切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[EFFECT]スイッチ左上の2つのランプが設定によって点灯または消灯します。

CHORUS	TREMOLO	No.	説明
消灯	消灯	1	プログラムチェンジとバンクセレクトを送受信しません
点灯	消灯	2	プログラムチェンジのみを送受信します
点灯	点灯	3	両方送受信します
点灯	点滅	4	両方送受信しますが、GM音色のバンクをバンク0、ドラムキットをバンク2として送信します

通常は“3”にしてください。音色が正しく割り当てられないときは、“2”や“4”に設定してください。

## プログラムチェンジとコントロールチェンジナンバーについて

前述のプログラムフィルターを“3”または“4”に設定すると次のようにコントロールチェンジと、プログラムチェンジを送受信します。括弧内が“4”のときの状態です。

バンクセレクト		プログラムチェンジ (送受信)		音色セクター
MSB	LSB			
0	4	0		PIANO1
0	4	1		PIANO2
0	4	2		E.PIANO
0	4	3		HARPSI
0	4	4		VIBES
0	4	5		ORGAN
0	4	6		STRINGS
62	0 (2)	0~7		DRUM KIT :C-710
56 (0)	0 (0)	0~127		GM :C-710
62	0	0		DRUM KIT :C-560
56 (0)	0 (0)	32~39		BASS :C-560

外部のMIDIシーケンサーなどからC-710/C-560の音色を切り替える場合は、コントロールチェンジ#0にMSB(表参照)を、コントロールチェンジ#32にLSB(表参照)を送り、続いてプログラムチェンジを送ります。これらの動作は「プログラムフィルターの設定」により異なります。


## コントロールチェンジの設定

本体のダンパーペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からボリュームやパン(音の定位)、ダンパーペダルなどの情報を受信して、本体をコントロールします。送受信するコントロールチェンジについては59ページをご覧ください。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[PIANO2]を押します。  
[PIANO2]を押すたびに送受信するか、しないかが切り替わります。


[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PIANO2]スイッチのランプが設定によって点灯または消灯します。

設定	[PIANO2]	説明
イネーブル	消灯	コントロールチェンジを送受信する
ディスエーブル	点灯	コントロールチェンジを送受信しない

 この設定をディスエーブルにしてもバンクセレクトを送受信します。コントロールチェンジを送受信するかしないかを設定するときは、ペダルを踏まない状態で行ってください。


## 本体レコーダーの演奏データをデータファイラーに保存します

本体のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)に保存します。そして必要ときにデータファイラーから本体レコーダーに演奏データを読み込みます。これをデータダンプ機能といいます。

 必ずデータファイラーの取扱説明書をよく読んでから、ここでの操作を行ってください。


本体の演奏データをデータファイラーに保管するには

1. MIDIデータダンプのデータを受信可能な外部MIDI機器(データファイラー等)の[MIDI IN]端子とC-710/C-560の[MIDI OUT]端子をMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーを操作して、C-710/C-560からのMIDIデータを受信待ちの状態にします。
3. [MIDI]スイッチを押しながら、[STRINGS]スイッチを押します。  
データダンプが開始し、演奏データが[MIDI OUT]端子からデータファイラーに送信されます。

 データダンプ実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。  
データダンプに要する時間は演奏データによって異なります。

データファイラーの演奏データを本体のレコーダーに読み込むには

1. MIDIデータダンプのデータを送信可能な外部MIDI機器(データファイラー等)の[MIDI OUT]端子とC-710/C-560の[MIDI IN]端子を接続します。
2. 送信側のチャンネル(データファイラーに保存されている演奏データを送信するときは、そのデータを保存したときのグローバルMIDIチャンネル)と、受信側のグローバルMIDIチャンネルを合わせます。
3. データファイラーを操作して、C-710/C-560の演奏データを送信します。


 データダンプの実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。  
ペダルの設定の変更の情報(12ページ「レイヤー時のペダルの設定」参照)は、データファイラーに記録しておくことはできません。

## 本体レコーダーと外部MIDI機器との同期

C-710/C-560のレコーダーは、MIDIで接続したMIDIリズムマシンや、シーケンサーなどと同時に演奏を行うことができます。これを「同期をとる」といいます。マスター機(コントロールする側のMIDI機器)の[MIDI OUT]端子とスレーブ機(コントロールされる側)のMIDI機器の[MIDI IN]端子を接続します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら[TEMPO]スイッチを押します。  
[TEMPO]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面には現在の設定が表示されます。
2. C-710/C-560がマスターのときは“ln”に、スレーブのときは“E”に、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して選びます。  

ln	E
内部 (Internal)	外部 (External)
3. C-710/C-560がマスターのときは[START/STOP]スイッチを押します。同期させる外部MIDI機器については外部MIDIの取扱説明書をご覧ください。
4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプと[TEMPO]スイッチのランプが消灯します。

 本体から出力されるMIDIクロック(テンポを合せるための信号)は、メトロノームのテンポに従います(接続するMIDI機器のクロックの設定などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください)。  
“E”(外部)に設定したときは、MIDIクロックが入力されないとレコーダーの再生/録音はできません。  
[START/STOP]スイッチを押すと、LED画面に“E”が表示されます。この表示は、[TEMPO]スイッチを押したときにも現れます。

### 3. コンピュータとの接続

C-710/C-560はコンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータでC-710/C-560を鳴らしたり、C-710/C-560でのキーボード演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様に行えます。C-710/C-560は、次のコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。

#### IBM PC (互換機):

接続キットAG-001B (接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”) [別売]。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にC-710/C-560をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

#### Apple Macintosh シリーズ:

接続キットAG-002B (接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”) [別売]。

#### NEC PC-9800シリーズ:

##### RS-232C (SERIAL1) を利用する場合

接続キットAG-003B (接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”) [別売]。

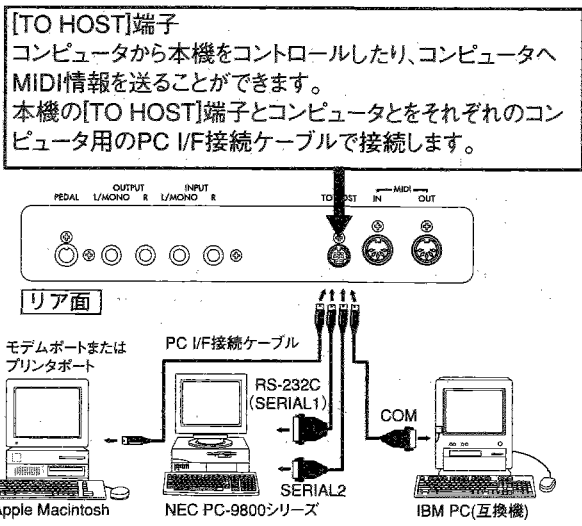
ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサー)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。

アプリケーション(シーケンサー)はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものに限りま

##### SERIAL2を利用する場合

接続キットAG-001B (接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”) [別売]。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にC-710/C-560をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。



**!** C-710/C-560の[MIDI OUT]と[TO HOST]の両方を外部の一台の機器に接続しないでください。必ずどちらか一方だけを接続してください。

C-710/C-560はコンピュータから受信したデータを[MIDI OUT]に送信したり、[MIDI IN]から受信したデータをコンピュータ側へ送信することはできません。

### IBM PC (互換機)との接続

1. IBM PC (互換機)のシリアルポート(COMポート)とC-710/C-560の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル(AG-001B [別売])で接続します。コンピュータのシリアルポートが25ピンの場合には9ピン-25ピン変換アダプター(AG-004 [別売])をご利用ください。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [-/DOWN]スイッチを押して、同期周波数を“38.4”(38.4kBPS)に設定します。
4. Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、42ページをご覧ください。

### Apple Macintoshとの接続

1. Apple MacintoshのモデムポートあるいはプリンタポートとC-710/C-560の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル(AG-002B [別売])で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [+ /UP]スイッチを押して、同期周波数を“31.2”(31.25kBPS)に設定します。

KORG MIDI Driverをお使いになる場合は45ページをご覧ください。



## NEC PC-9800シリーズとの接続

### RS-232C (SERIAL1) を利用する場合

1. NEC PC-9800シリーズのRS-232C (SERIAL1) 端子とC-710/C-560の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル (AG-003B別売) で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [+UP]スイッチを押して、LED画面の数値を“31.2” (31.25KBPS) に設定します。
4. MS-DOS上のアプリケーション (シーケンサー) をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。  
また、Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。  
インストールの方法は、42ページをご覧ください。

### SERIAL2を利用する場合

1. NEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子とC-710/C-560の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル (AG-001B別売) で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [-/DOWN]スイッチを押して、同期周波数を“38.4” (38.4KBPS) に設定します。
4. Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。  
インストールの方法は、42ページをご覧ください。

## 1. スタンドの組み立て方

ST-710(C-710付属)

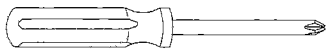


**注意**

本体組み付けは二人以上で行ってください。  
 本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように注意してください。  
 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。  
 本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。



1. お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意します。



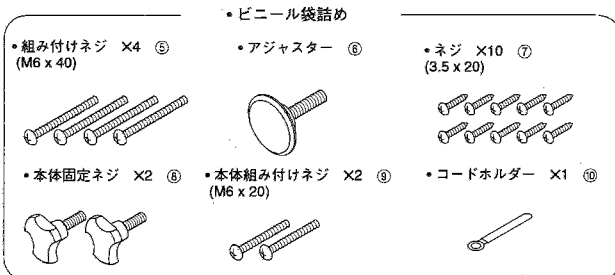
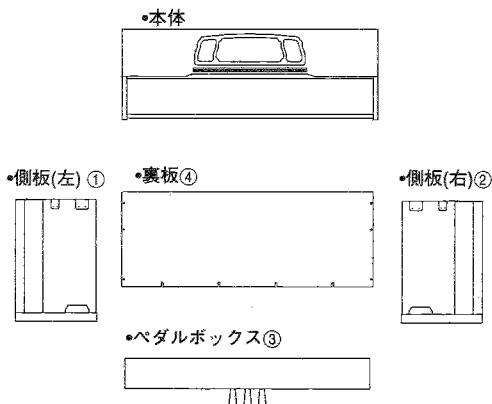
2. 箱をあけて部品を取り出します。

梱包材の発泡スチロールを2個取り出し、その上に本体を置きます。

発泡スチロールは、本体下の電源コードを保護するように配置してください。



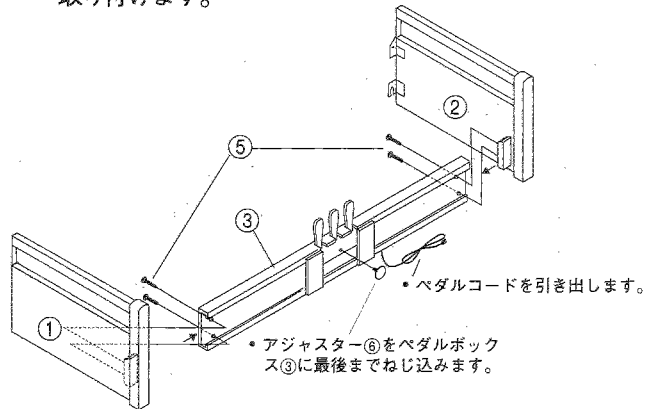
3. 下記部品が揃っているのを確認してください。



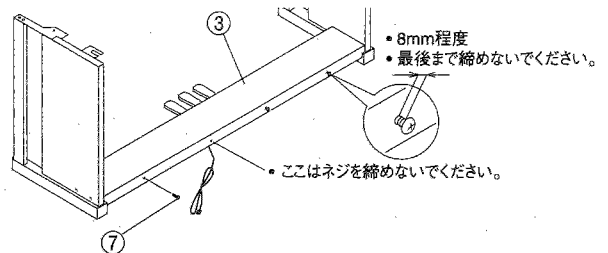
4. 組み立ては必ず下図の様に、スタンド背面側を平らな床などに置いて行ってください。

側板(左)①と側板(右)②をペダルボックス③に隙間の無いように取り付け、組み付けネジ⑤4本で固定します。

ペダルボックス③にアジャスター⑥をねじ込み取り付けます。



5. ネジ⑦3本をペダルボックス③に仮締めします。



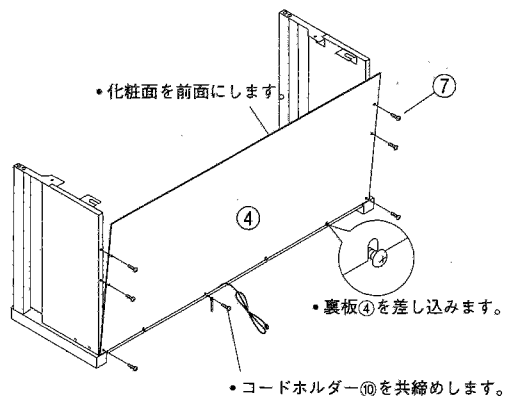
6. 裏板④を組み付けます。

仮締めしたネジ⑦に裏板④を差し込みます。

ネジ⑦6本で側板の下穴に合わせて裏板④を固定します。

仮締めめのネジ⑦3本を最後まで締めます。

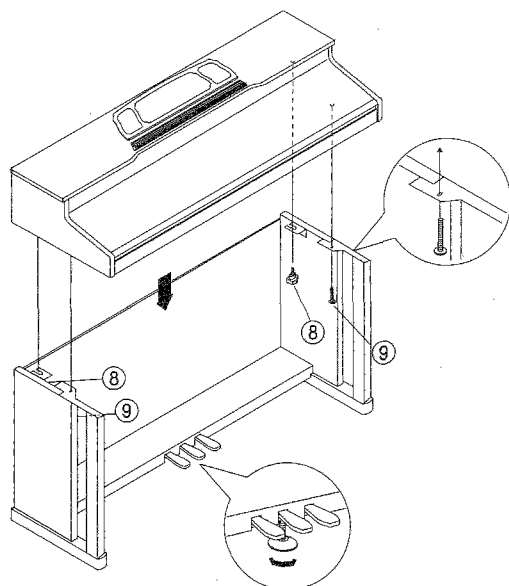
ネジ⑦1本でコードホルダー⑩を共締めします。



## 7. 本体を組み付けます。

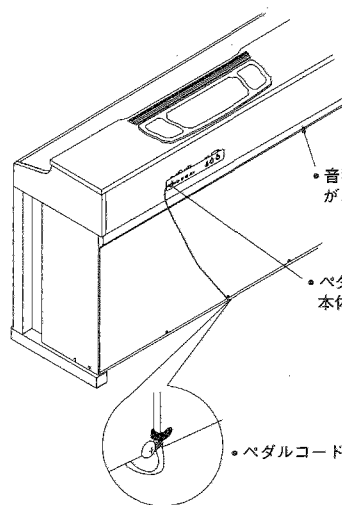
本体うしろ側から乗せ、軽く持ち上げ前側に動かします。

本体固定ネジ⑧2本および、本体組み付けネジ⑨2本で下方から固定します。



• アジャスターを回して、アジャスターが床にしっかり当たるように調節してください。アジャスターが床にしっかり当たらないとペダルがぐらついたり、音がびりつくことがあります。

## 8. ペダルコードを接続、固定します。



• 音響効果を良くする為、裏板の上方部が空いています。

• ペダルコードのコネクターの矢印を上にして本体後ろのPEDAL端子に差し込みます。

• ペダルコードをコードホルダーで固定します。

## 組立後のチェック

- 部品は余っていませんか?  
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- 取付ネジのゆるみのないことを確認してください。

## ⚠ 注意

## 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時には次のことを注意してください。

- 電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードが引っかかったりして、断線、ショートや破損の原因になります。
- ペダルコードをドアのノブなどに引っかけないように注意してください。

## ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

## 分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

## ST-560(C-560付属)

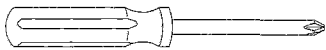


### 注意

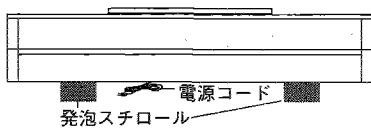
本体組み付けは二人以上で行ってください。  
 本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように注意してください。  
 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。  
 本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。



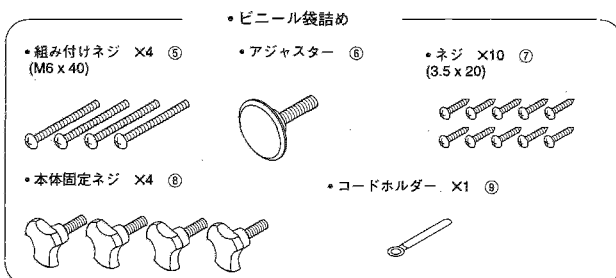
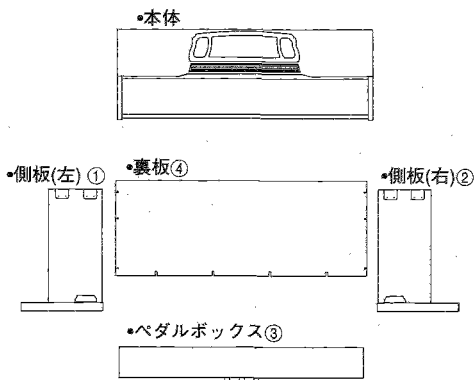
1. お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意します。



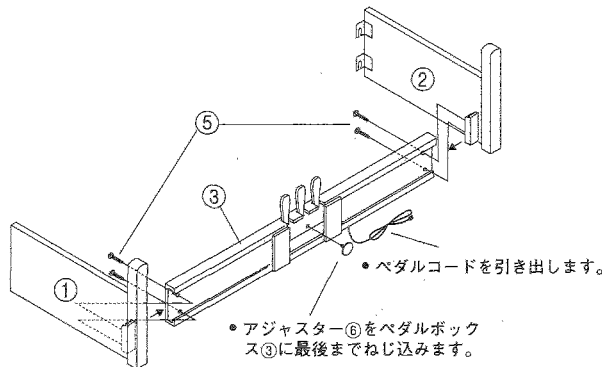
2. 箱をあけて部品を取り出します。  
 梱包材の発泡スチロールを2個取り出し、その上に本体を置きます。  
 発泡スチロールは、本体下の電源コードを保護するように配置してください。



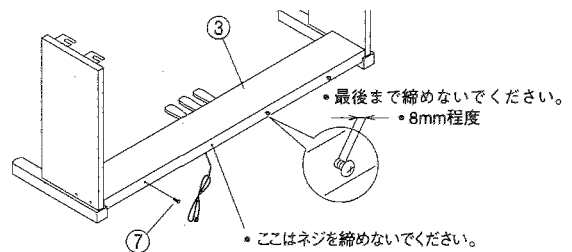
3. 下記部品が揃っているのを確認してください。



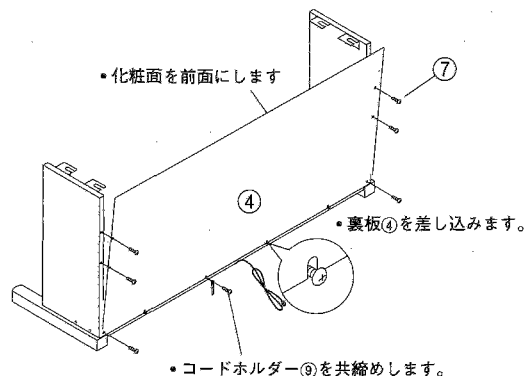
4. 組み立ては必ず下図の様に、スタンド背面側を平らな床などに置いて行ってください。  
 側板(左)①と側板(右)②をペダルボックス③に隙間の無いように取り付け、組み付けネジ⑤4本で固定します。  
 ペダルボックス③にアジャスター⑥をねじ込み取り付けます。



5. ネジ⑦3本をペダルボックス③に仮締めします。



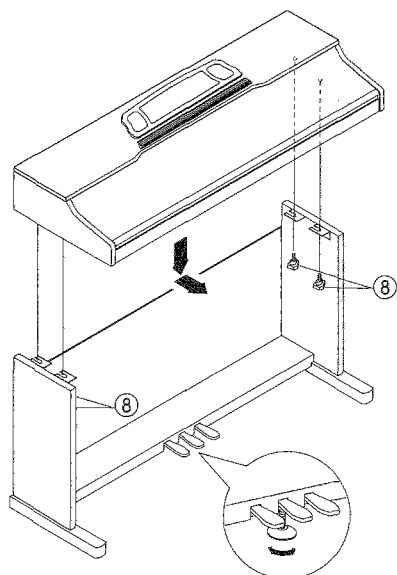
6. 裏板④を組み付けます。  
 仮締めしたネジ⑦に裏板④を差し込みます。  
 ネジ⑦6本で側板の下穴に合わせて裏板④を固定します。  
 仮締めのネジ⑦3本を最後まで締めます。  
 ネジ⑦1本でコードホルダー⑨を共締めします。



## 7. 本体を組み付けます。

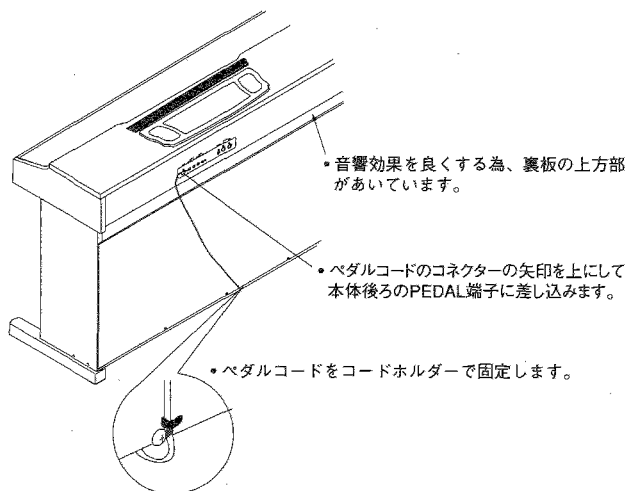
本体うしろ側から乗せ、軽く持ち上げ前側に動かします。

本体固定ネジ⑧4本で下方から固定します。



- アジャスターを回して、アジャスターの側面が床にしっかり当たるように調節してください。アジャスターが床面にしっかり当たらないとペダルがぐらついたり、音がびりつくことがあります。

## 8. ペダルコードを接続、固定します。



• 音響効果を良くする為、裏板の上方部があいています。

• ペダルコードのコネクターの矢印を上にして本体後ろのPEDAL端子に差し込みます。

• ペダルコードをコードホルダーで固定します。

## 組立後のチェック

- 部品は余っていませんか？  
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- 取付ネジのゆるみのないことを確認してください。

## ⚠ 注意

### 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時には次のことを注意してください。

- 電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードが引っかかったりして、断線、ショートや破損の原因になります。
- ペダルコードをドアのノブなどに引っかけないように注意してください。

### ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

### 分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。


## 2. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

C-710/C-560とコンピュータを接続するためのオプション  
[別売]AG-001B、AG-002B、AG-003Bには、“KORG MIDI Driver”が付属されています。

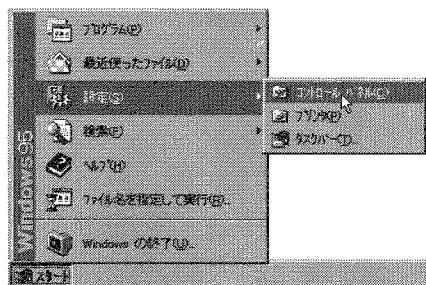
IBM PC(互換機)、NEC PC-9800シリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合に“KORG MIDI Driver”を使用しますと、シリアルポート(COM, RS-232C、Serial2)に接続したC-710/C-560をMIDIデバイスとして扱えるようになります。

また、Apple Macintoshシリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Managerに対応している場合に“KORG MIDI Driver”を使用しますと、シリアルポート(モデム、プリンタ)に接続したC-710/C-560とMacintoshとの間で相互に情報のやり取りが行えるようになります。

### KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール

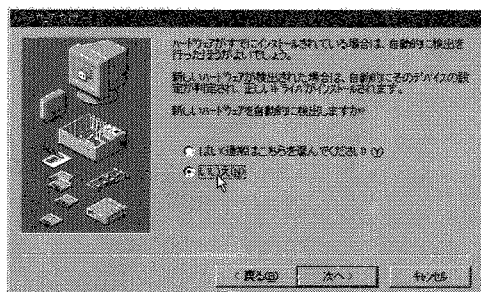
 お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI IN データを正しく受信できないことがあります。

1. タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[設定]の中の[コントロールパネル]をクリックします。

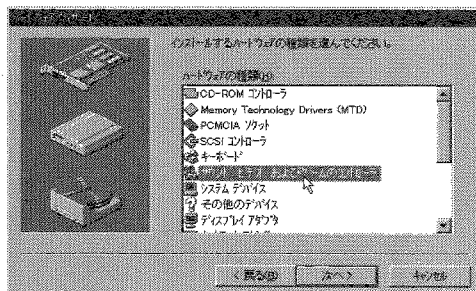


2. コントロールパネルの中の[ハードウェア]アイコンをダブルクリックすると、ハードウェアウィザードが起動するので[次へ>]ボタンをクリックします。

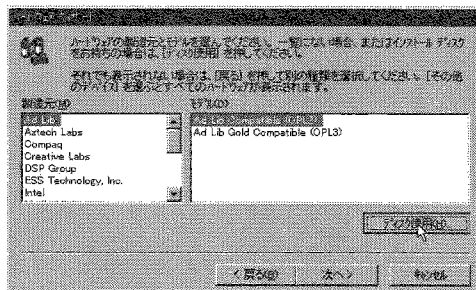
3. 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」という質問に対して、必ず[いいえ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。



4. [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。



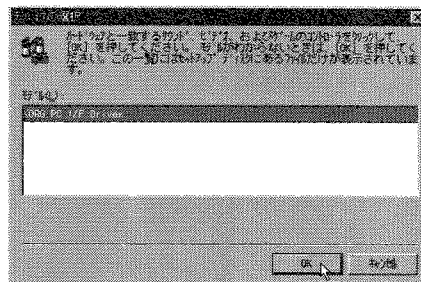
5. [ディスク使用]をクリックします。  
ドライブとディレクトリを指定するダイアログが表示されます。



6. AG-001B、AG-003Bの付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。

Aドライブに入れた場合は“A:¥”(Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。ただし、PC-9800シリーズでAG-001Bの付属ディスクをインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れて“A:¥PC98”(Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

7. [OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。

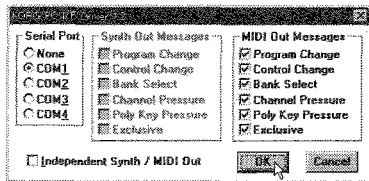


8. 「KORG MIDI Driver(Windows)のセットアップ」(43ページ)に従ってセットアップを行ない[OK]ボタンをクリックします。

9. ドライバーを有効にするために必ず再起動させてください。

## KORG MIDI Driver (Windows) の セットアップ

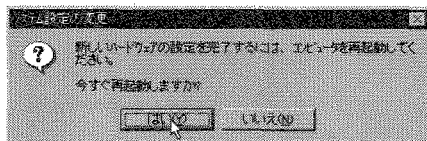
1. コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックし、[KORG PC/IF Driver] を選び、設定のボタンをクリックするとセットアップの画面になります。



2. Serial PortではC-710/C-560を接続したシリアルポートを[COM1]～[COM4]の中から選びます。PC-9800シリーズではRS-232C(SERIAL1)に接続している場合は[COM1]に、SERIAL2に接続している場合は[COM2]を選んでください。

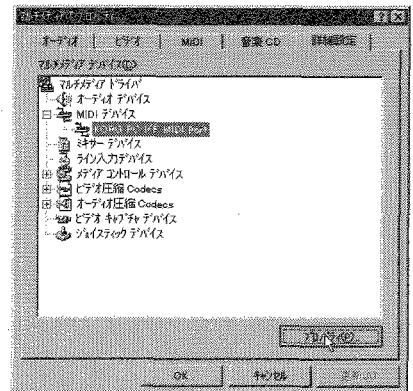
“KORG MIDI Driver”を組み込んだ後に、シリアルポートを別の用途に使うときには、ドライバを削除 (Delete) するか、または[None]を選んでドライバを無効にしてください。

3. C-710/C-560と接続したときは、[Independent Synth/MIDI Out]は使用しませんので、チェックしないでください。  
チェックすると誤動作の原因になります。
4. [MIDI Out Messages]ではC-710/C-560へ送るメッセージを選ぶことができます。
5. 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。  
また、無効にしたい場合は[Cancel]をクリックします。
6. ドライバーを有効にするために必ず再起動させてください。

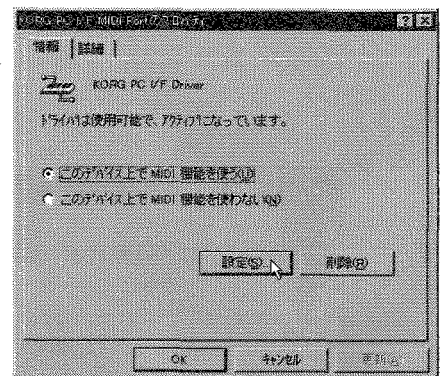


## KORG MIDI DriverのWindows95の セットアップを変更する場合

1. コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックすると、マルチメディアのプロパティダイアログが表示されます。




2. 右上の[詳細設定]タブをクリックします。
3. [MIDIデバイス]の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります)[KORG PC I/F MIDI Port]をクリックします。
4. [プロパティ]ボタンをクリックします。  
KORG PC I/F MIDI Portのプロパティが表示されます。
5. [設定]ボタンをクリックします。  
前述の「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」に従ってセットアップを行い、[OK]ボタンをクリックします。

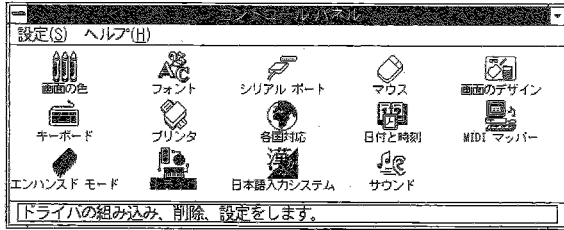


設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。

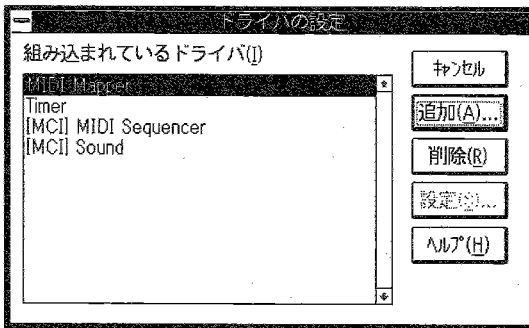
## KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール

 お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI IN データを正しく受信できないことがあります。

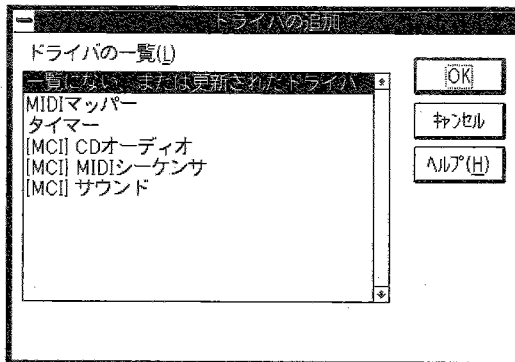
1. コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックします。



2. [追加] ボタンをクリックします。

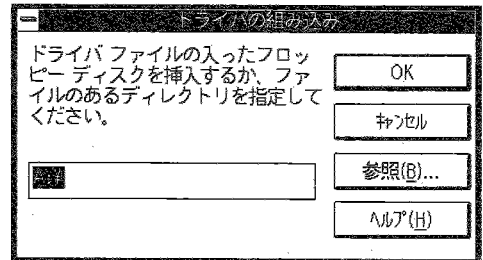


3. ドライバの一覧の中から[一覧にない、または更新されたドライバ]を選び、[OK] ボタンをクリックします。



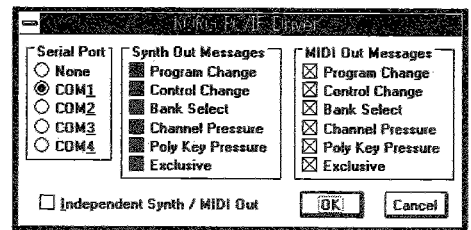
4. AG-001B、AG-003Bの付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。

Aドライブに入れた場合は“A:¥”(Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK] ボタンをクリックします。ただし、PC-9800シリーズでAG-001Bの付属ディスクからインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れて“A:¥PC98”(Bドライブの場合は“B: ¥PC98”)と入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。

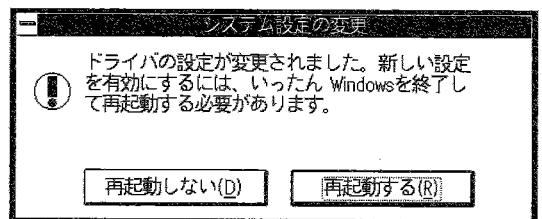


5. KORG PC/IF Driverを選び、[OK] ボタンをクリックすると、セットアップの画面になります。

[KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ](43ページ)に従って、セットアップを行ってください。



6. セットアップ後、ドライバを有効にするために、ディスクを取り出し、[再起動する]を選択します。





## KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール



“KORG MIDI Driver”を使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002Bには付属されていません。

“KORG MIDI Driver”を使うと、“Modem MIDI Out Port setting”ダイアログ(46ページ参照)でC-710/C-560に送るMIDIチャンネルと、メッセージの種類を設定することができます。

そのような機能が必要な場合は、“KORG MIDI Driver”を使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。

Apple MIDI Driverを使う場合や、Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は46ページをご覧ください。

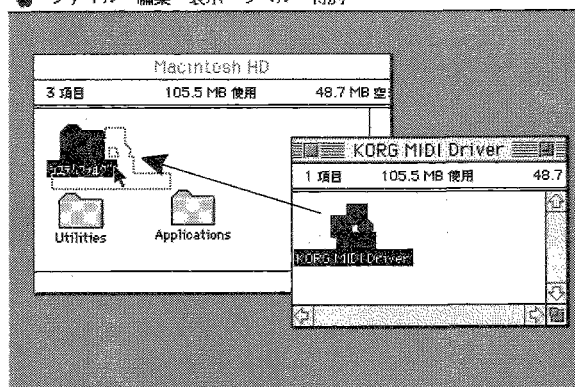
1. AG-002Bの付属ディスク内の“KORG MIDI Driver”を起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。

2. システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。

※ “KORG MIDI Driver”は、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。

3. 特別メニューから“再起動”を選択します。

ファイル 編集 表示 ラベル 特別



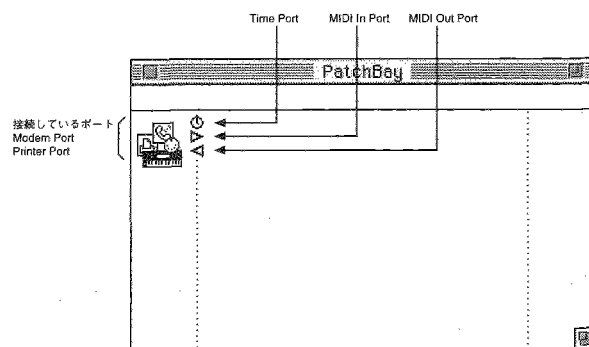
## KORG MIDI Driver (Macintosh)のセットアップ

1. PatchBayを起動します。

インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると図のようにPatchBayウィンドウ内に“KORG MIDI Driver”のアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)

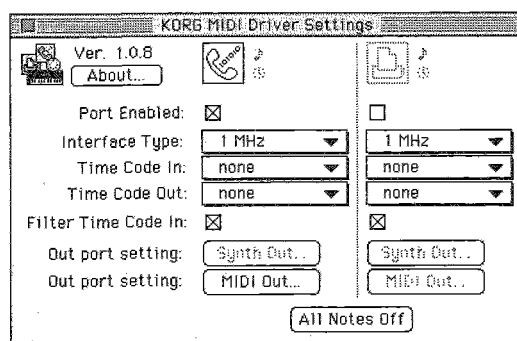
2. PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

セットアップダイアログが表示されます。



3. C-710/C-560を接続しているポートのPort Enabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定します。

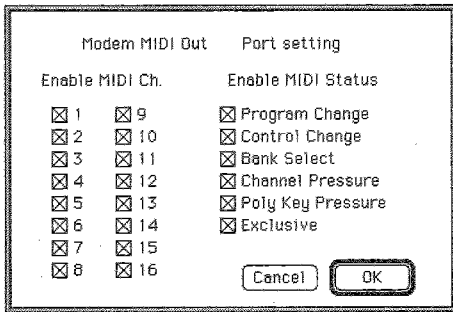
(C-710/C-560には、KORG PC IFが内蔵されていないので[KORG PCIF]は選択しないでください。)



4. [Out Port Setting] ボタンを押します。

次のダイアログが現れます。  
ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。

チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。



5. 設定後、[OK] ボタンを押します。

6. MIDIアプリケーション(シーケンサー)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの◁からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。

- PatchBayの使用方法については、“🍏”メニューの“About PatchBay...”等の説明をご覧ください。

Apple MIDI Driverを使う場合は、“KORG MIDI Driver”がシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後) PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、C-710/C-560を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。

PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサー)のOutPortの◁からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は、C-710/C-560が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1MHz]に設定してください。

## AG-002B付属のMIDI File Translatorについて

市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。

AG-002Bに付属されているMIDI File Translatorは、これらのMS-DOSのSMFソングファイルをMacintoshのMIDIアプリケーションがSMFとして認識できるように変換するApple File Exchange用のTranslator(翻訳プログラム)です。

1. MIDI File TranslatorをApple File Exchangeと同じフォルダに入れます。

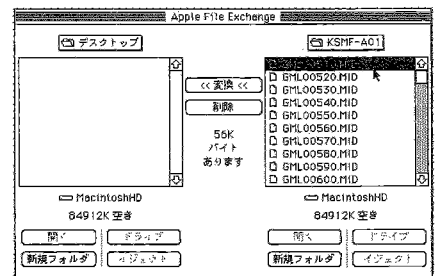


2. Apple File Exchangeをダブルクリックして、起動します。

3. 変換したいMS-DOSディスクをドライブに挿入します。

下のような画面が現れます(画面上はKORG SMFライブラリKSMF-A01です)。

MS-DOSフォーマットのディスクは必ず“Apple File Exchange”を起動させてから、ディスクドライブに入れてください。



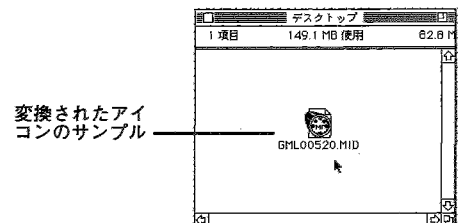
4. 変換したいソング(曲)ファイルを選びます。

5. 中央の「<<変換<<」(又は「>>変換>>」) ボタンを押します。

変換が始まります。

棒グラフが100%までいくと、変換が完了します。

左側のボックスに変換されたファイルが現れます。



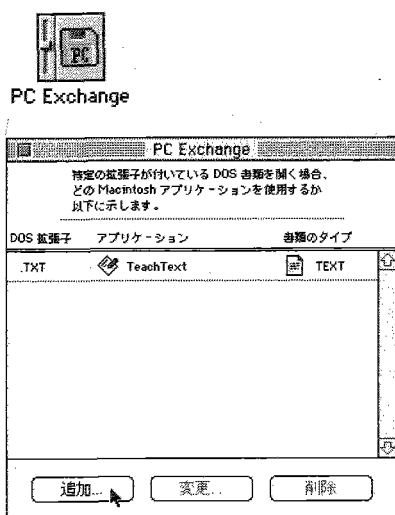
6. Apple File Exchangeを終了します。

## PC ExchangeによるSMFの変換方法

MacintoshのシステムにApple File Exchangeが付属されていない場合は、PC Exchangeを使用することで、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

例として、KORG Audio Gallery[別売]に付属されているMIDI PlayerでMS-DOSのSMFソングファイルを開くための設定方法を説明します。

1. コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。  
PC Exchangeのコントロールパネルが現れます。

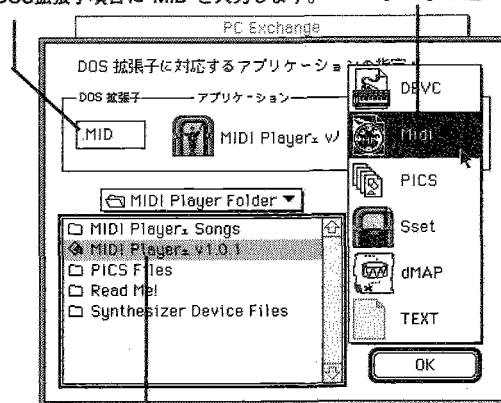


- 2 [追加...] ボタンを押します。  
[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。
- 3 DOS拡張子項目に“MID”と入力します。  
MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字を、ファイル名の後に付けます。  
SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。

- 4 ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション(シーケンサー)を選びます。

ここでは例として、[MIDI Player v1.0.1]を選びます。アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。

DOS拡張子項目に“MID”と入力します。 [midi] を選びます。

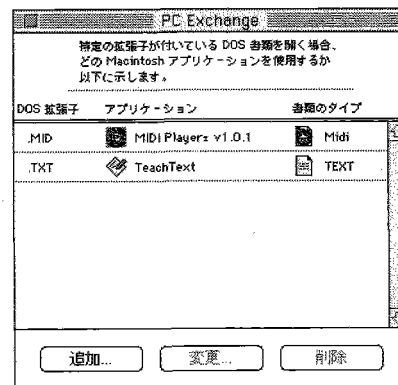


SMFを扱えるMIDIアプリケーションを選びます。

- 5 [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。



- \* 詳しくは“Macintosh PC Exchange”の解説をご覧ください。

### 3.仕様

	C-710	C-560
鍵盤	88鍵	88鍵
タッチコントロール	ライト、スタンダード、ヘビー	
音源システム	aiスクエアシンセシスシステム	
最大同時発音数	32/16*1	
音色プログラム数	143 (ROM:7 + GM:128 + GM Dr:1 + Dr:7)	16 (ROM:7 + Bass:8 + GM Dr:1)
音色プログラム(グループ)	ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、オルガン、ストリングス、ドラムキット(8)、GM(128)	ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、オルガン、ストリングス、ドラムキット、ベース(8)
エフェクター	サラウンド(3Dサウンド*2/リバーブ/プリセット)、エフェクト(コーラス/トレモロ)	
レコーダー	16トラック、10ソング(最大記憶容量40,000ステップ) <リセット、スタート/ストップ、レコード、REW、FF、リピート、ソングセレクト、パートセレクト、ロード、セーブ>	16トラック、10ソング(最大記憶容量31,000ステップ) <リセット、スタート/ストップ、レコード、REW、FF、リピート、ソングセレクト、パートセレクト>
フロッピーディスクドライブ	3.5インチ2DD、2HD (SMFミュージックデータプレイバック可能)	-
メトロノーム	メトロノーム、テンポ、ビート、ボリューム	
ディスプレイ	8セグメントLED × 3	
ペダル	ダンパー*3、ソフト*3、ソステヌート	
接続端子	アウトプット** (L/MONO、R)、インプット** (L/MONO、R)、ヘッドホン × 2**、MIDI (IN、OUT)、PC I/F (TO HOST)	
マイクインプット	インプット**、マイクボリューム、エコーレベルボリューム	-
コントロール	マスターボリューム、パワースイッチ、プリアンス、キートランスポーズ、チューニング、テンペラメント	
メインアンプ	30W × 2	
スピーカー	16cm × 2、5cm × 2	
電源	100V	
消費電力	67W	64W
外形寸法	1,404 (W) × 483 (D) × 873 (H)	
重量	55.9Kg	54.8kg
付属品	デモデータディスク、イス、ヘッドホン	イス、ヘッドホン
オプション	AG-001B/002B/003B	

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

\*1: 音色や、レイヤー設定により少なくなることがあります。

\*2: 3DサウンドはSRS Labs, Inc.社のSRS技術を使用しています。

\*3: ハーフペダルに対応しています。

\*4: 標準プラグです。

• Apple MacintoshおよびMIDI Manager, MIDI Driver, PatchBayは、米国アップルコンピュータ社の登録商標および商標です。

• IBMは米国IBM社の登録商標です。

• MIDI Playerはバスポートデザイン社の商標です。

• MS-DOSおよびWindowsは米国マイクロソフト社の登録商標および商標です。

• PC-9800シリーズは日本電気株式会社の商標です。

• SRSおよびSRS記号は、米国および一部諸外国におけるSRS Labs, Inc.社の登録商標です。SRS技術は、SRS Labs, Inc.社のライセンスによるもので、米国特許番号第4,748,669号および4,841,572号と、多数の追加発行および出願中の外国特許により保護されます。本製品の購入により、SRS技術で製造した記録物の販売権は移転しません。

• MIDIおよびGENERAL MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

## 4. 音色グループリスト

## [GM] 音色リスト (C-710のみ)

\* のついた音色を選ぶと最大発音数は16音になります。

[Piano]	[Bass]	[Reed]	[SynthEffects]
1 Piano	33 Jazz Bass	65 SopranoSax	*97 Ice Rain
2 BritePiano	34 Deep Bass	66 Alto Sax	*98 SoundTrack
*3 HammerPno	35 Pick Bass	67 Tenor Sax	*99 Crystal
*4 HonkeyTonk	36 Fretless	68 Bari Sax	*100 Atmosphere
5 New Tines	37 SlapBass 1	69 Sweet Oboe	*101 Brightness
6 Digi Piano	38 SlapBass 2	70 EnglishHrn	*102 Goblin
7 Harpsicord	*39 SynthBass1	71 BassoonOboe	103 Echo Drop
8 Clav	40 SynthBass2	72 Clarinet	*104 Star Theme
[Percussion]	[Strings]	[Pipe]	[Ethnic]
9 Celesta	41 Violin	73 Piccolo	*105 Sitar
10 Glocken	42 Viola	74 Flute	106 Banjoe
11 Music Box	43 Cello	75 Recorder	107 Shamisen
12 Vibes	44 ContraBass	76 Pan Flute	108 Koto
13 Marimba	45 TremoloStr	77 Bottle	109 Kalimba
14 Xylophon	46 Pizzicato	78 Shakuhachi	*110 Scotland
15 Tubular	47 Harp	79 Whistle	*111 Fiddle
16 Santur	48 Timpani	80 Ocarina	112 Shanai
[Organ]	[Ensemble]	[Synth Lead]	[Percussive]
17 Full Organ	49 Marcato	*81 SquareWave	113 Metal Bell
*18 Perc Organ	50 SlowString	*82 Saw Wave	114 Agogo
19 BX-3 Organ	*51 Analog Pad	*83 SynCaliope	115 SteelDrums
20 ChurchPipe	52 String Pad	*84 Syn Chiff	116 Woodblock
21 Positive	53 Choir	*85 Charang	*117 Taiko
22 Musette	54 Doo Voice	*86 AirChorus	118 Tom
23 Harmonica	55 Voices	*87 Rezzo4ths	119 Synth Tom
24 Tango	56 Orch Hit	*88 Bass&Lead	120 Rev Cymbal
[Guitar]	[Brass]	[Synth Pad]	[Sound Effects]
25 ClassicGtr	57 Trumpet	*89 Fantasia	121 Fret Noise
26 A.Guitar	58 Trombone 1	90 Warm Pad	122 NoiseChiff
27 JazzGuitar	59 Tuba	*91 Poly Pad	*123 Seashore
28 Clean Gtr	60 Muted Trpt	92 Ghost Pad	*124 Birds
29 MuteGuitar	*61 FrenchHorn	*93 BowedGlas	*125 Telephone
30 Over Drive	62 Brass	*94 Metal Pad	*126 Helicopter
31 DistGuitar	*63 SynBrass 1	*95 Halo Pad	*127 Stadium!!
*32 RockMonics	*64 SynBrass 2	96 Sweep	128 GunShot

※音色によっては発音する音域が限定されます。

## [BASS] 音色リスト (C-560のみ)

\* のついた音色を選ぶと最大発音数は16音になります。

- 01 Jazz Bass
- 02 Deep Bass
- 03 Pick Bass
- 04 Fretless
- 05 SlapBass 1
- 06 SlapBass 2
- \*07 SynthBass1
- 08 SynthBass2

※音色によっては発音する音域が限定されます。

[PIANO1], [PIANO2] and [GM] "001" sounds processed by Infinity™.



[DRUM KIT](ドラムキット)マップ

	PC#	1.GM Kit	Ex.asn	2.Room Kit	Ex.asn	3.Power Kit	Ex.asn	4.Electronic	Ex.asn
A0	21	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	22	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	23	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
C1	24	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	25	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	26	FingerSnap	OFF	FingerSnap	OFF	FingerSnap	OFF	FingerSnap	OFF
	27	Zap 1	OFF	Zap 1	OFF	Zap 1	OFF	Zap 1	OFF
	28	Gun Shot 1	OFF	Gun Shot 1	OFF	Gun Shot 1	OFF	Gun Shot 1	OFF
	29	Scratch Hi	Group7	Scratch Hi	Group7	Scratch Hi	Group7	Scratch Lo	Group7
	30	Scratch Lo	Group7	Scratch Lo	Group7	Scratch Lo	Group7	Scratch Hi	Group7
	31	Stick Hit	OFF	Stick Hit	OFF	Stick Hit	OFF	Stick Hit	OFF
	32	Snap	OFF	Snap	OFF	Snap	OFF	Snap	OFF
	33	Metronome1	OFF	Metronome1	OFF	Metronome1	OFF	Metronome1	OFF
	34	Tubular 3	OFF	Tubular 3	OFF	Tubular 3	OFF	Tubular 3	OFF
	35	Real Kick	OFF	Ambl.Kick	OFF	Metal Kick	OFF	Dance Kick	OFF
C2	36	Ambl.Kick	OFF	Ambl.Kick	OFF	Gated Kick	OFF	Syn Kick 4	OFF
	37	Side Stick	OFF	Side Stick	OFF	Side Stick	OFF	Side Stick	OFF
	38	Snare 1	OFF	GatedSnare	OFF	GatedSnare	OFF	OilDrum	OFF
	39	Hand Claps	OFF	Hand Claps	OFF	Hand Claps	OFF	Hand Claps	OFF
	40	PicloSnare	OFF	Ambl.Snare	OFF	Rock Snare	OFF	GatedSnare	OFF
	41	Tom 1 Lo	OFF	Tom 2 Lo	OFF	ProcessTom	OFF	Syn Tom 1	OFF
	42	Close HH	Group1	Close HH	Group1	Close HH	Group1	Close HH	Group1
	43	Tom 1 Lo	OFF	Tom 2 Lo	OFF	ProcessTom	OFF	Syn Tom 1	OFF
	44	Pedal HH	Group1	Pedal HH	Group1	Pedal HH	Group1	Pedal HH	Group1
	45	Tom 1 Lo	OFF	Tom 2 Lo	OFF	ProcessTom	OFF	Syn Tom 1	OFF
	46	Open HH	Group1	Open HH	Group1	Open HH	Group1	Open HH	Group1
	47	Tom 1 Hi	OFF	Tom 2 Hi	OFF	ProcessTom	OFF	Syn Tom 1	OFF
C3	48	Tom 1 Hi	OFF	Tom 2 Hi	OFF	ProcessTom	OFF	Syn Tom 1	OFF
	49	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF
	50	Tom 1 Hi	OFF	Tom 2 Hi	OFF	ProcessTom	OFF	Syn Tom 1	OFF
	51	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF
	52	China Cym	OFF	China Cym	OFF	China Cym	OFF	Rev.Cymbal	OFF
	53	Ride Cup	OFF	Ride Cup	OFF	Ride Cup	OFF	Ride Cup	OFF
	54	Tambourine	OFF	Tambourine	OFF	Tambourine	OFF	Tambourine	OFF
	55	Splash Cym	OFF	Splash Cym	OFF	Splash Cym	OFF	Splash Cym	OFF
	56	Cowbell	OFF	Cowbell	OFF	Cowbell	OFF	Cowbell	OFF
	57	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF
	58	Viblaslap	OFF	Viblaslap	OFF	Viblaslap	OFF	Viblaslap	OFF
	59	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF
C4	60	Hi Bongo	OFF	Hi Bongo	OFF	Hi Bongo	OFF	Hi Bongo	OFF
	61	Lo Bongo	OFF	Lo Bongo	OFF	Lo Bongo	OFF	Lo Bongo	OFF
	62	Palm Conga	OFF	Palm Conga	OFF	Palm Conga	OFF	Palm Conga	OFF
	63	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF
	64	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF
	65	Hi Timbal	OFF	Hi Timbal	OFF	Hi Timbal	OFF	Hi Timbal	OFF
	66	Lo Timbal	OFF	Lo Timbal	OFF	Lo Timbal	OFF	Lo Timbal	OFF
	67	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF
	68	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF
	69	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF
	70	Maracas	OFF	Maracas	OFF	Maracas	OFF	Maracas	OFF
	71	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2
C5	72	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2
	73	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3
	74	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3
	75	Claves	OFF	Claves	OFF	Claves	OFF	Claves	OFF
	76	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF
	77	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF
	78	Mute Cuica	Group4	Mute Cuica	Group4	Mute Cuica	Group4	Mute Cuica	Group4
	79	Open Cuica	Group4	Open Cuica	Group4	Open Cuica	Group4	Open Cuica	Group4
	80	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5
	81	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5
	82	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF
	83	JingleBell	OFF	JingleBell	OFF	JingleBell	OFF	JingleBell	OFF
C6	84	MarcTree 1	OFF	MarcTree 1	OFF	MarcTree 1	OFF	MarcTree 1	OFF
	85	Castanet	OFF	Castanet	OFF	Castanet	OFF	Castanet	OFF
	86	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6
	87	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6
	88	-	-	-	-	-	-	-	-
	89	-	-	-	-	-	-	-	-
	90	-	-	-	-	-	-	-	-
	91	-	-	-	-	-	-	-	-
	92	-	-	-	-	-	-	-	-
	93	-	-	-	-	-	-	-	-
	94	-	-	-	-	-	-	-	-
	95	-	-	-	-	-	-	-	-
C7	96	-	-	-	-	-	-	-	-
	97	-	-	-	-	-	-	-	-
	98	-	-	-	-	-	-	-	-
	99	-	-	-	-	-	-	-	-
	100	-	-	-	-	-	-	-	-
	101	-	-	-	-	-	-	-	-
	102	-	-	-	-	-	-	-	-
	103	-	-	-	-	-	-	-	-
	104	-	-	-	-	-	-	-	-
	105	-	-	-	-	-	-	-	-
	106	-	-	-	-	-	-	-	-
	107	-	-	-	-	-	-	-	-
C8	108	-	-	-	-	-	-	-	-

C-560の[DRUM KIT]は“1. GM Kit”です。 Key:MIDIノートナンバー。 PC#:プログラムナンバーとプログラムネーム。

Ex.asn:同一Group内ではモノで発音します(例:タイトハイハットとオープンハイハット)。

↓:矢印で指しているサウンドと同じ内容です。 -:発音しません。1. GM KitのKey 35~81がGMで規定されているサウンドです。

Key	PC #	5.Analog Kit		6.Jazz Kit		7.Brush Kit		8.Orch Kit	
			Ex.asn		Ex.asn		Ex.asn		Ex.asn
A0	21	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	22	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
C1	24	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	25	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	26	FingerSnap	OFF	FingerSnap	OFF	FingerSnap	OFF	FingerSnap	OFF
	27	Zap 1	OFF	Zap 1	OFF	Zap 1	OFF	Close HH	Group1
	28	Gun Shot 1	OFF	Gun Shot 1	OFF	Gun Shot 1	OFF	Pedal HH	Group1
	29	Scratch Lo	Group7	Scratch Hi	Group7	Scratch Hi	Group7	Open HH	Group1
	30	Scratch Hi	Group7	Scratch Lo	Group7	Scratch Lo	Group7	Ride Edge	OFF
	31	Stick Hit	OFF	Stick Hit	OFF	Stick Hit	OFF	Stick Hit	OFF
	32	Snap	OFF	Snap	OFF	Snap	OFF	Snap	OFF
	33	Metronome1	OFF	Metronome1	OFF	Metronome1	OFF	Metronome1	OFF
	34	Tubular 3	OFF	Tubular 3	OFF	Tubular 3	OFF	Tubular 3	OFF
	35	Syn Kick 3	OFF	Dry Kick	OFF	Dry Kick	OFF	Real Kick	OFF
C2	36	Syn Kick 3	OFF	Real Kick	OFF	Real Kick	OFF	Orch B.Drm	OFF
	37	Syn Rim	OFF	Side Stick	OFF	Side Stick	OFF	Side Stick	OFF
	38	SynSnare 1	OFF	Dry Snare	OFF	Brush Tap	OFF	Soft Snare	OFF
	39	Hand Claps	OFF	Hand Claps	OFF	Brush Slap	OFF	Castanet	OFF
	40	SynSnare 2	OFF	LightSnare	OFF	BrushSwish	OFF	Soft Snare	OFF
	41	SynTom2 Lo	OFF	Tom 1 Lo	OFF	Brush Tom	OFF	Timpani	OFF
	42	CloseSynHH	Group1	Close HH	Group1	Close HH	Group1	Timpani	OFF
	43	SynTom2 Lo	OFF	Tom 1 Lo	OFF	Brush Tom	OFF	Timpani	OFF
	44	CloseSynHH	Group1	Pedal HH	Group1	Pedal HH	Group1	Timpani	OFF
	45	SynTom2 Lo	OFF	Tom 1 Lo	OFF	Brush Tom	OFF	Timpani	OFF
	46	OpenSyn HH	Group1	Open HH	Group1	Open HH	Group1	Timpani	OFF
	47	SynTom2 Hi	OFF	Tom 1 Hi	OFF	Brush Tom	OFF	Timpani	OFF
C3	48	SynTom2 Hi	OFF	Tom 1 Hi	OFF	Brush Tom	OFF	Timpani	OFF
	49	OpenSyn HH	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Timpani	OFF
	50	SynTom2 Hi	OFF	Tom 1 Hi	OFF	Brush Tom	OFF	Timpani	OFF
	51	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Timpani	OFF
	52	China Cym	OFF	China Cym	OFF	China Cym	OFF	Timpani	OFF
	53	Ride Cup	OFF	Ride Cup	OFF	Ride Cup	OFF	Timpani	OFF
	54	Tambourine	OFF	Tambourine	OFF	Tambourine	OFF	Tambourine	OFF
	55	Splash Cym	OFF	Splash Cym	OFF	Splash Cym	OFF	Splash Cym	OFF
	56	SynCowbell	OFF	Cowbell	OFF	Cowbell	OFF	Cowbell	OFF
	57	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF	Crash Cym	OFF
	58	Viblaslap	OFF	Viblaslap	OFF	Viblaslap	OFF	Viblaslap	OFF
	59	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Ride Edge	OFF	Orch Cym	OFF
C4	60	Hi Bongo	OFF	Hi Bongo	OFF	Hi Bongo	OFF	Hi Bongo	OFF
	61	Lo Bongo	OFF	Lo Bongo	OFF	Lo Bongo	OFF	Lo Bongo	OFF
	62	SynTom2 Hi	OFF	Palm Conga	OFF	Palm Conga	OFF	Palm Conga	OFF
	63	SynTom2 Hi	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF
	64	SynTom2 Hi	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF	Open Conga	OFF
	65	Hi Timbal	OFF	Hi Timbal	OFF	Hi Timbal	OFF	Hi Timbal	OFF
	66	Lo Timbal	OFF	Lo Timbal	OFF	Lo Timbal	OFF	Lo Timbal	OFF
	67	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF
	68	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF	Agogo	OFF
	69	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF
	70	SynMaracas	OFF	Maracas	OFF	Maracas	OFF	Maracas	OFF
	71	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2
C5	72	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2
	73	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3
	74	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3
	75	Syn Claves	OFF	Claves	OFF	Claves	OFF	Claves	OFF
	76	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF
	77	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF	WoodBlockL	OFF
	78	Mute Cuica	Group4	Mute Cuica	Group4	Mute Cuica	Group4	Mute Cuica	Group4
	79	Open Cuica	Group4	Open Cuica	Group4	Open Cuica	Group4	Open Cuica	Group4
	80	Mute Triang	Group5	Mute Triang	Group5	Mute Triang	Group5	Mute Triang	Group5
	81	Open Triang	Group5	Open Triang	Group5	Open Triang	Group5	Open Triang	Group5
	82	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF	Cabasa	OFF
	83	JingleBell	OFF	JingleBell	OFF	JingleBell	OFF	JingleBell	OFF
C6	84	MarcTree 1	OFF	MarcTree 1	OFF	MarcTree 1	OFF	MarcTree 1	OFF
	85	Castanet	OFF	Castanet	OFF	Castanet	OFF	Castanet	OFF
	86	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6
	87	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6	Taiko Lo	Group6
	88	-	-	-	-	-	-	-	-
	89	-	-	-	-	-	-	-	-
	90	-	-	-	-	-	-	-	-
	91	-	-	-	-	-	-	-	-
	92	-	-	-	-	-	-	-	-
	93	-	-	-	-	-	-	-	-
	94	-	-	-	-	-	-	-	-
	95	-	-	-	-	-	-	-	-
C7	96	-	-	-	-	-	-	-	-
	97	-	-	-	-	-	-	-	-
	98	-	-	-	-	-	-	-	-
	99	-	-	-	-	-	-	-	-
	100	-	-	-	-	-	-	-	-
	101	-	-	-	-	-	-	-	-
	102	-	-	-	-	-	-	-	-
	103	-	-	-	-	-	-	-	-
	104	-	-	-	-	-	-	-	-
	105	-	-	-	-	-	-	-	-
	106	-	-	-	-	-	-	-	-
	107	-	-	-	-	-	-	-	-
C8	108	-	-	-	-	-	-	-	-

C-560の[DRUM KIT]は“1. GM Kit”です。 Key:MIDIノートナンバー。 PC#:プログラムナンバーとプログラムネーム。

Ex.asn:同一Group内ではモノで発音します(例:タイトハイハットとオープンハイハット)。

↓:矢印で指しているサウンドと同じ内容です。 -:発音しません。1. GM KitのKey 35~81がGMで規定されているサウンドです。

# 5. 操作スイッチ機能一覧

C-710/C-560の操作スイッチの機能一覧です。

表記について

- ☐ : 単独でスイッチを押したときの機能.
- ☐☐ : [MIDI]スイッチを押しながら各スイッチを押したときの機能.

## C-710

<input type="radio"/> 3D SOUND	<input type="radio"/> LIGHT	☐☐ チューニング (p.15)	☐☐ 音律の選択 (p.16)
<input type="radio"/> REVERB	<input type="radio"/> CHORUS	<input type="radio"/> STANDARD	☐☐ Hz/cent切り替え (p.16)
<input type="radio"/> PRESET	<input type="radio"/> TREMOLO	<input type="radio"/> HEAVY	☐☐ 音律のキー(調)替え (p.17)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SURROUND	EFFECT	TOUCH CONTROL	TUNE	TEMPERAMENT

☐☐ サラウンドの選択 (p.12)    ☐☐ エフェクトの選択 (p.12)    ☐☐ タッチコントロール (p.14)  
 ☐☐ プログラムフィルター (p.34)

2つの[音色セクター]を同時に押す：レイヤー (p.11)

☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ このスイッチに関する設定の表示
☐☐ ローカルオン/オフ (p.34)	☐☐ コントロールチェンジ (p.35)			☐☐ 他のスイッチと組み合わせて設定
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
PIANO1	PIANO2	E.PIANO	HARPSI	MIDI
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
VIBES	ORGAN	STRINGS	DRUM KIT	GM
☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)
☐☐ グローバルMIDI ch. (p.34)	☐☐ PCIFボレート (p.36,37)	☐☐ データーダンブ (p.35)	☐☐ バウンス (p.23)	☐☐ クオンタイズ (p.23)

## C-560

<input type="radio"/> 3D SOUND	<input type="radio"/> LIGHT	☐☐ チューニング (p.15)	☐☐ 音律の選択 (p.16)
<input type="radio"/> REVERB	<input type="radio"/> CHORUS	<input type="radio"/> STANDARD	☐☐ Hz/cent切り替え (p.16)
<input type="radio"/> PRESET	<input type="radio"/> TREMOLO	<input type="radio"/> HEAVY	☐☐ 音律のキー(調)替え (p.17)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SURROUND	EFFECT	TOUCH CONTROL	TUNE	TEMPERAMENT

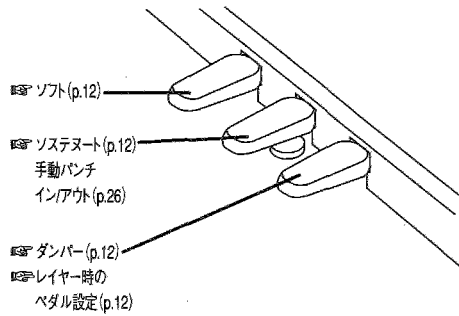
☐☐ サラウンドの選択 (p.12)    ☐☐ エフェクトの選択 (p.12)    ☐☐ タッチコントロール (p.14)  
 ☐☐ プログラムフィルター (p.34)

2つの[音色セクター]を同時に押す：レイヤー (p.11)

☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ このスイッチに関する設定の表示
☐☐ ローカルオン/オフ (p.34)	☐☐ コントロールチェンジ (p.35)			☐☐ 他のスイッチと組み合わせて設定
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
PIANO1	PIANO2	E.PIANO	HARPSI	MIDI
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
VIBES	ORGAN	STRINGS	DRUM KIT	BASS
☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)	☐☐ 音色の選択 (p.11)
☐☐ グローバルMIDI ch. (p.34)	☐☐ PCIFボレート (p.36,37)	☐☐ データーダンブ (p.35)	☐☐ バウンス (p.23)	☐☐ クオンタイズ (p.23)

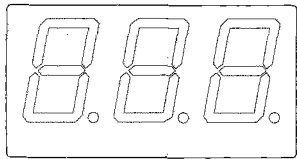


# C-710/C-560



値の変更  
2つのスイッチを同時に押す  
:ミュート(p.22)

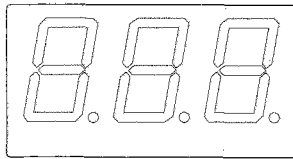
☑ 外ロノームオン/オフ(p.13)	☑ テンポの調節(p.13)	☑ 拍子の選択(p.13)	☑ 外ロノームの音量(p.13)	☑ ソングの選択(p.18, 20)	☑ パートの選択(p.18, 21)	☑ ソングのロード(p.28)	☑ ソングのセーブ(p.27)
☑ 外ロノームアクセント音(p.14)	☑ レコーダーの同期(p.35)	☑ パートのMIDI ch.(p.33)	☑ パートの音量(p.22)	☑ ソングの消去(p.24)	☑ パートの消去(p.24)	☑ SMFのロード(p.30)	☑ SMFのセーブ(p.30)



+ / UP PART MUTE	METRONOME						DISK	
	METRONOME	TEMPO	BEAT	METRO VOLUME	SONG	PART	LOAD	SAVE
- / DOWN SELECT/VALUE	RESET	START/STOP	RECORD	REW	FF	REPEAT	SONG PLAY	DEMO
	リセット(p.14, 18) ☑ 設定の初期化(p.55)	再生/停止(p.18, 20)	録音(p.18) 録音モード/ メモリー残量(p.24)	巻き戻し(p.20) ☑ 自動バンチイン小節(p.25)	早送り(p.20) ☑ 自動バンチアウト小節(p.25)	繰り返し再生(p.20)	ソングプレイ(p.9, 28, 31) SMFのマイ ナスワン演奏 音量(p.29)	デモ演奏(p.9) フロッピー ディスクのフォー マット(p.27)

値の変更  
2つのスイッチを同時に押す  
:ミュート(p.22)

☑ 外ロノームオン/オフ(p.13)	☑ テンポの調節(p.13)	☑ 拍子の選択(p.13)	☑ 外ロノームの音量(p.13)	☑ ソングの選択(p.18, 20)	☑ パートの選択(p.18, 21)	☑ ソングの消去(p.24)	☑ パートの消去(p.24)
☑ 外ロノームアクセント音(p.14)	☑ レコーダーの同期(p.35)	☑ パートのMIDI ch.(p.33)	☑ パートの音量(p.22)	☑ ソングの消去(p.24)	☑ パートの消去(p.24)		



+ / UP PART MUTE	METRONOME						
	METRONOME	TEMPO	BEAT	METRO VOLUME	SONG	PART	
- / DOWN SELECT/VALUE	RESET	START/STOP	RECORD	REW	FF	REPEAT	DEMO
	リセット(p.14, 18) ☑ 設定の初期化(p.55)	再生/停止(p.18, 20)	録音(p.18) 録音モード/ メモリー残量(p.24)	巻き戻し(p.20) ☑ 自動バンチイン小節(p.25)	早送り(p.20) ☑ 自動バンチアウト小節(p.25)	繰り返し再生(p.20)	デモ演奏(p.9)

## 6. LED画面のメッセージ

### メッセージ

**E--**

レコーダーを外部クロックに設定しているときに[TEMPO]スイッチを押すと表示されます。

**Lo**

内臓バックアップバッテリーの電圧が低下しています。  
最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせください。

### エラーメッセージ(C-710のみ)

**E06**

今セットされているディスクの中に、これ以上ファイルを作ることはできません。  
別のディスクと交換してからもう一度操作してください。

**E10**

選択したファイルにはデータが入っていません。

**E11**

ファイルのデータが途中で壊れています。  
正しいファイルを選択しているかどうかもう一度確かめてください。

**E13**

選択したファイルは、属性がリードオンリーになっています。  
C-710本体を操作してもファイルの属性を変更することはできません。  
変更する場合はコンピュータを使って属性を変更してから再びC-710にディスクをセットし操作してください。  
ファイルの属性、及びその変更については、コンピュータの取扱説明書、コンピュータのOS(基本ソフト)の説明書をご覧ください。

**E14**

指定したファイル番号は、そのディスクでは既にディレクトリとして使われています。  
別のファイル番号を指定して、もう一度操作してください。

**E15**

指定したファイル番号は、そのディスクでは既にシステムファイルとして使われています。  
別なファイル番号を指定してもう一度操作してください。

**E16**

選択したファイルはC-710のものではありません。  
正しいファイル番号を指定してもう一度操作してください。

**E18**

C-710の作業用として必要なメモリが不足しています。  
必要な空きメモリの容量を確保するためには今C-710の本体内に記憶されているソングのデータを消去しなければなりません。  
消去したくないデータが残っていたらそのデータをディスクにセーブし、ソングのデータを消去して、空きメモリの容量を増やしておいてから、もう一度操作してください。

**E25**

選択したファイルはスタンダードMIDIファイル・フォーマットに準拠していません。  
正しいファイルを選択してもう一度操作してください。

**E26**

選択したファイルはスタンダードMIDIファイル・フォーマット2に準拠しています。  
C-710はスタンダードMIDIファイルのフォーマット2には対応していません。

**-F-**

今セットされているフロッピーディスクはC-710で使用できるディスクとはフォーマットが異なります。  
正しいディスクをセットしているかどうか確かめてください。

**FUL**

今セットされているディスクの中に、これ以上データを書き込める空き領域がありません。  
空き容量の残っている別のディスクと交換してからもう一度操作してください。

**-P-**

ディスクが書き込み禁止の状態になっています。  
書き換えを行っても構わないディスクなら書き込み禁止タブを閉じてからもう一度操作してください。

**nod**

フロッピーディスクがディスクドライブにセットされていません。  
ディスクをドライブに正しくセットしてからもう一度操作してください。

**nof**

ディスクの中に該当するファイル(ソングモードの場合は\*.SNG、ソングプレイやSMFのロードの場合は\*.MID)がありません。

## その他のディスクに関するメッセージ (C-710のみ)

※LEDが点滅します

**BBF**

今フォーマットしようとしているディスクには既にXX個のファイルが存在しています。このままフォーマットを実行するとディスクにあるファイルは全て失われてしまいます。  
正しいディスクをセットしているかどうかもう一度確かめてください。

**FBB**

セーブおよびSMFセーブの時、指定したものと同じ番号のファイルが既にディスク上に存在します。  
このままセーブを実行するとその番号のファイルの内容を新しいものに置き換えてしまいます。

**---**

ディスクの内容をチェックしているときに表示されます。

**FBB**

セーブ、ロードなどで、ファイル番号を表示したままピリオドの部分が点滅します。ディスクからデータをロードしているか、あるいはセーブしています。

**dF**

フォーマットを実行しているときに表示されます。

**dEL**

指定したSMFフォーマット1の演奏データを演奏するために必要なメモリが不足しています。  
必要な空きメモリの容量を確保するためにC-710の本体内に記憶されているソングのデータを消去します。  
消去したくないデータが残っている場合はそのデータをディスクにセーブしてからもう一度操作をしてください。  
消去してよい場合は、[SONG]スイッチを押すと、すべてのソングデータを消去してからSMFフォーマット1の演奏を開始します。

## 7. 設定の初期化

1つのソングのパートの音色、MIDIチャンネルの設定と、ペダルの設定を初期化することができます。

パートのMIDIチャンネルを変更したり、外部シーケンサーや内蔵ディスクドライブ(C-710のみ)で演奏データを読み込んだりして音が思うとおりに設定できなくなったときや、ペダルが正しく効かないときは、初期化してください。

	パート1~9, 11~16	パート10
音色	PIANO1	DRUM Kit (GM KIT)
MIDIチャンネル	1~9, 11~16 (各パートNo.に対応)	10

- [SONG]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して初期化するソングを選びます。  
ペダルはすべてのソングに対して共通に初期化されますのでペダルを初期化する場合は、パートに音色を選んでいるソングを選んでください。
- [MIDI]スイッチと[RESET]スイッチを同時に押すと、初期化されます。



初期化するときは、ペダルを踏まないでください。

## 8. 故障とお思いになる前に

### 電源が入らない

- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか? (p.8)
- 電源スイッチがオンになっていますか? (p.8)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。

### 音が出ない

- C-710/C-560の[MASTER VOLUME]スライダーが上がっていますか? (p.8)
- ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか? (p.8)
- 現在選んでいるパートの音量が“0”になっていませんか? (p.22)
- 現在選んでいるパートがミュートされていませんか? (p.22)
- [DEMO]スイッチのランプが点灯していませんか? [DEMO]スイッチをオフにしてください。 (p.9)
- ローカルオンになっていることを確認してください。 (p.34)

### 音が途切れてしまう

- C-710/C-560の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリングデータの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。[PIANO1]、[GM](C-710)と[BASS](C-560)の一部の音色で2つのデータを鳴らします。これらの音色を選ぶとダンパーペダルを踏んでいるときも含め同時に発音させることができる音数は16音となります。それ以外の音色では最大同時発音数は32音となります。また、レイヤーにして同時に2つの音色を鳴らすときのサンプリングデータを1つ使っているか2つ使っているかで最大同時発音数は異なってきます。たとえばサンプリングデータを1つ鳴らす音色と2つ鳴らす音色を組み合わせると最大同時発音数は10音になります。レイヤーや、レコーダーに複数のパートを録音する場合は音色の組み合わせを上手に選んでください。

### 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。

- C-710/C-560のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

### ペダルの効果が正しくかからない

- 電源オン時や、設定の初期化を行ったときにペダルを踏みませんでしたか? (p.8, 55)
- ペダル用コネクターがはずれていませんか? (p.39, 41)

### ソフトウェアペダルの効果がかからない

- 録音モードに手動パンチインが選ばれていませんか? (p.26)
- ペダル用コネクターがはずれていませんか? (p.39, 41)

### 再生できない

- C-710/C-560の同期設定が“In”(内部)になっていることを確認してください。スレーブ(同期される側)機として使う場合は、“E”(外部)にして、外部機器がMIDIクロックデータを正しく送信するようにしてください。 (p.35)

### 録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか? (p.26)
- 録音モードの設定が合っていますか? (p.24)
- C-710/C-560の同期設定が“In”(内部)になっていることを確認してください。スレーブ(同期される側)機として使う場合は、“E”(外部)にして、外部機器がMIDIクロックデータを正しく送信するようにしてください。 (p.35)

### 外部機器が送信されたMIDIデータに応答しない

- MIDIケーブルや、PC専用接続ケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。 (p.32)
- 送信機器と同じチャンネルでC-710/C-560がMIDIデータを受信していることを確認してください。 (p.33)
- MIDIチャンネル(パート、グローバル)は合っていますか? (p.33, 34)

### 鍵盤を弾いても指定したドラム・サウンドが出ない

- [KEY TRANSPOSE]スライダーが“C”になっていることを確認してください。 (p.15)

### 大音量で鳴らすと本体又はフロッピーディスクドライブがびりつく

- 音量を下げてください。 (p.8)
- フロッピーディスクを入れてみてください。 (p.3)

## フロッピーディスクに関する問題 (C-710)

### フロッピーディスクをフォーマットできない

- 3.5インチ2DDまたは2HDのフロッピーディスクを使っていますか? (p.3)  
このタイプのディスクを必ず使ってください。
- ディスクが正しく挿入されていますか? (p.3)
- ディスクのライト・プロテクト・タブがプロテクト側にセットされていませんか? (p.3)
- [DEMO]スイッチのランプが点灯していませんか? (p.27)
- 本体ディスクドライブのヘッドが汚れている可能性があります。ヘッドをクリーニングしてください。(p.3)

### データをフロッピーディスクにセーブできない

- ディスクが正しく挿入されていますか? (p.3)
- ディスクのライト・プロテクト・タブがプロテクト側にセットされていませんか? (p.3)
- ディスクをフォーマットしていますか? (p.27)
- LED画面にエラーメッセージがでていませんか? 各々の指示にしたがって操作してください。(p.54, p.55)
- 本体ディスクドライブのヘッドが汚れている可能性があります。ヘッドをクリーニングしてください。(p.3)

### データをフロッピーディスクからロードできない

- ディスクが正しく挿入されていますか? (p.3)
- ディスクにデータが入っていますか? (p.27)
- LED画面にエラーメッセージがでていませんか? 各々の指示にしたがって操作してください。(p.54, p.55)
- 本体ディスクドライブのヘッドが汚れている可能性があります。ヘッドをクリーニングしてください。(p.3)

## 9. 索引

### ア行

移調	15
上書き	24
音色グループ	11
音色セレクター	11
音律	16
キー	17
音量	8

### カ行

重ね書き	25
カラオケ	31
キートランスポーズ	15
共鳴効果	12
クオンタイズ	23
グローバルMIDIチャンネル	34
コントロールチェンジ	34, 35

### サ行

再生	20
音色の変更	20
テンポの変更	20
サラウンド	12
3D サウンド	12
消去	24
ソング	24
パート	24
スタンダードMIDIファイル (SMF)	28
Macintosh への変換方法	47
再生	28
ストレッチチューニング	17
セーブ	
演奏データ	27
スタンダードMIDIファイル	30
データファイラー	35
設定の初期化	14, 55
接続	32
MIDI 機器	32
オーディオ機器	32
コンピュータ	36
シンセサイザー	32
セント (cent)	15
ソステヌートペダル	12
ソフトペダル	12
ソングプレイ	28

### タ行

タッチコントロール	14
ダンパーペダル	12
データダンプ	35
データファイラー	35
ディスクドライブ	3
ヘッドのクリーニング	3
デモ演奏	9
デモ曲リスト	9, 10
テンポ	13
同期	35
ドラムキット	11

### ハ行

ハーフペダル	12
バウンス	23
バックアップバッテリー	3
パンチイン/アウト	25
自動	25
手動	26
ピッチ	15
拍子	13
複数のパートの録音	21
音量	22
付属のデモディスク	10
プログラムフィルター	34
フロッピーディスク	3
スタンダードMIDIファイルのセーブ	30
スタンダードMIDIファイルのロード	30
セーブ	27
フォーマット(初期化)	27
ロード	28
ペダル用コネクタ	2, 39, 41
ヘルツ (Hz)	15

### マ行

マイク	31
マイナスイオン	22
マルチティンバー	33
ミュート	22
メトロノーム	13
アクセント音	14
音量	13
テンポ	13
拍子	13
メモリーの残量表示	26
モジュレーション	12

### ラ行

リピート	20
1曲全体	20
A-B 区間	21
レイヤー	11
音量	11
注意	20
ペダルの設定	12
ローカルオン/オフ	34
ロード	
演奏データ	28
スタンダードMIDIファイル	30
データファイラー	35
録音	18
注意 (C-710)	19
録音モード	24

### A

Apple Macintosh	36
-----------------	----

### B

[BASS] 音色リスト	49
--------------	----

### D

DRUM KIT	11
[DRUM KIT] マップ	50

### G

GM	11
GM スコア	22
[GM] 音色リスト	49

### I

IBM PC (互換機)	36
--------------	----

### K

KORG MIDI Driver	42
------------------	----

### L

LED 画面のメッセージ	54
--------------	----

### M

MIDI	32
MIDI チャンネル	33

### N

NEC PC-9800	36
-------------	----

### S

SMF (スタンダードMIDIファイル)	28, 30
----------------------	--------

### T

TO HOST	36
---------	----

C-710/C-560

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1 1~16	1 1~16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	×	3 ×	
ノート ナンバー： 音域	16~114 *****	0~127 0~108	レコーダーデータは送信時0~127 一部の音色で受信0~127
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	1~127 ×	1~127 ×	レコーダーデータは送信時2~126
アフター キー別 タッチ チャンネル別	×	○ ○	キー別はレコーダーデータのみ
ピッチ・ベンド	×	○	*C
コントロール チェンジ	0,32 ○ 1,2 × 6,38 × 7 ○ 10 × 11 × 64 ○0~127 66 ○ 67 ○0~127 72,73 × 92,94 × 100,101 × 120,121 × 0~101 ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○0~127 ○ ○0~127 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト *P モジュレーション *C データエントリー ボリューム *C パンポット *C,*3 エクスプレッション *C ダンパーペダル *C ソステヌートペダル *C ソフトペダル *C EGタイム *C エフェクト1,2 ON/OFF *C RPN *2 オールサウンドオフ,リセットオールコントローラ (シーケンスデータ)
プログラム チェンジ： 設定可能範囲	○0~127 *****	○0~127	*P
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
:ソング・ポジション コモン :ソング・セレクト :チューン	○ ○0~9 ×	○ ○0~9 ×	*1 *1
リアル :クロック タイム :コマンド	○ ○	○ ○	*1 *1
:ローカル・ON/OFF その他: オール・ノート・オフ :アクティブ・センシング :リセット	×	○ ○123~127 ○ ×	
備考	*C:コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき(送)受信する。 *P:プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき(送)受信する。 *1:クロックがインターナルのとき送信し受信しない。エクスターナルのときはその逆。 *2:LSB,MSB=00,00:ピッチベンドレンジ,=01,00:ファインチューン,=02,00:コースチューン *3:C-710のSONG PLAYの時のみ([PIANO1],[PIANO2],[E.Piano],[GM]"001","002"は除く)受信		

モード1:オムニ・オン、ポリ      モード2:オムニ・オン、モノ      ○:あり  
 モード3:オムニ・オフ、ポリ      モード4:オムニ・オフ、モノ      ×:なし

\*MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグ・インフォメーションへお問い合わせください。

## アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れまると修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎(06)374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。  
営業技術課 〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1 明正大井 5号営業所 ☎(03)3799-9085

#### <WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

# KORG

- 本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3325-5691
- インフォメーション：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)5376-5022
- 東京営業所：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)3323-5241
- 名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51 ☎(052)832-1419
- 大阪営業所：〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F ☎(06)374-0691
- 福岡営業所：〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第 2 池田ビル 1F ☎(092)531-0166